

激動の時代を
新しい視点から学ぶ
日本近現代史

世界恐慌から昭和恐慌へ

～戦前資本主義の構造と変化～

(<http://jugyo-jh.com/nihonsi/>)

はじめに 世界恐慌と昭和恐慌

世界恐慌（大恐慌・大不況）

1929年10月のニューヨーク株式市場大暴落をきっかけに世界的規模に波及した大不況。

⇒世界は第二次世界大戦に向かう



昭和恐慌

1930年1月浜口雄幸内閣の金解禁政策と



世界恐慌のタイミングが重なり発生した大不況。

⇒テロなどファシズム的な流れが高まり

・満州事変発生

⇒日本は最も早く恐慌から脱出したが・・・

「世界恐慌と昭和恐慌」関係年表

大正～昭和初期の経済



1890～1910ごろ 日本の産業革命

1914～1919 大戦(後)景気

1920年代 「不機嫌な時代」

1920 戦後恐慌

1923 震災恐慌

1927 金融恐慌

1929 7月 浜口内閣成立(井上財政)

10月 NYで株価大暴落(世界恐慌へ)

1930 昭和恐慌(1月金解禁実施～)

1931 12月犬養内閣成立

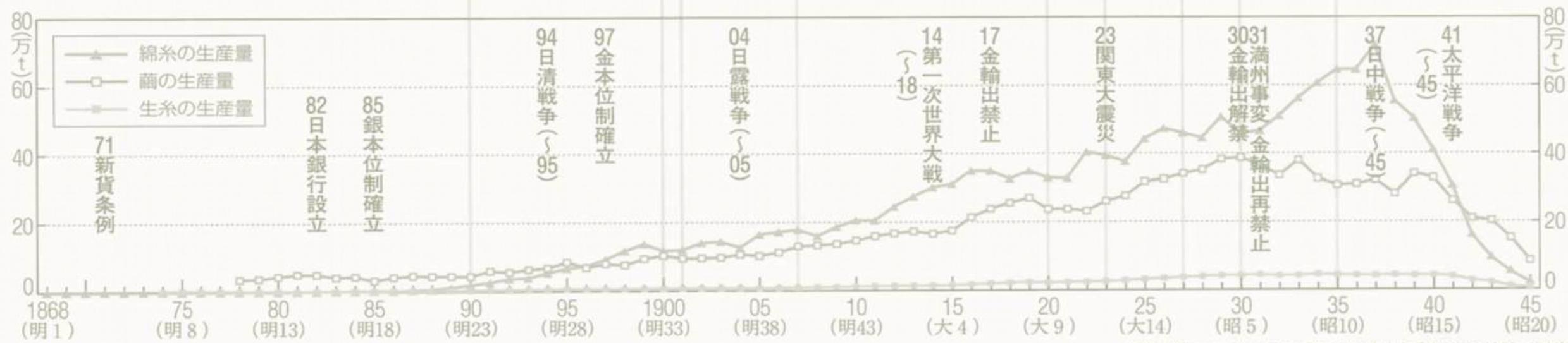
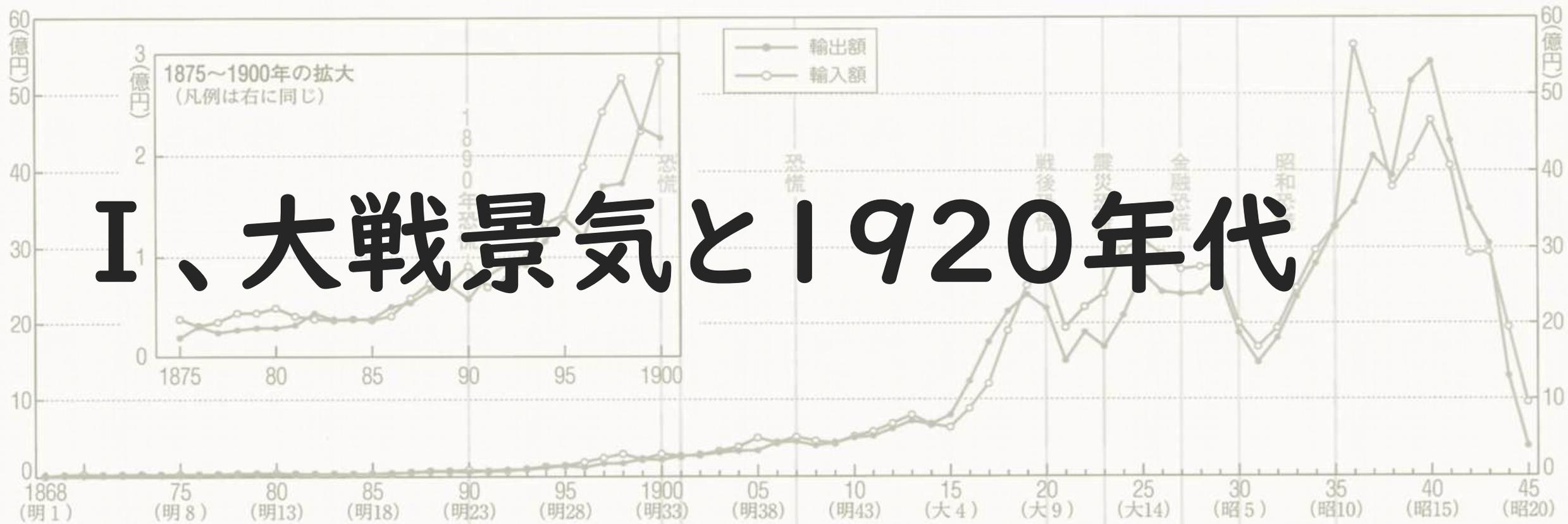
(高橋財政=金輸出再禁止)

→恐慌脱出へ(経済の軍国主義化)

1935 恐慌前の水準への回復

(ただし農業恐慌はつづく)

I、大戦景気と1920年代



(「近代日本経済史要覧」「明治以降本邦主要経済統計」など)

日本経済の激変

第一次世界大戦

1914~18



おもな戦場はヨーロッパ(「欧州戦争」)

協商国(イギリス・フランス・ロシア)
+ 日本、イタリア、アメリカ、中国他

Vs

同盟国(ドイツ・オーストリア)
+ オスマン帝国・ブルガリア

戦争の状況

① フランス東部などで膠着化→長期戦化

② 総力戦

= 国内の物的・人的資源を総動員

すべてつき込まないと勝てない!

第一次大戦と大戦景気

ヨーロッパからの輸入が停止



輸入代替産業発達 = 化学工業・金属・機械

アジア・ヨーロッパへ輸出 = 綿紡績・造船

貿易の活発化と船不足 = 造船・海運・商社



大戦景気の発生・「成金」の出現



数字の変化の大きさに注目！

まずは大戦景気による変化をみましょう

生糸は5倍弱、綿糸は4倍弱

軍需関連など海運・造船など船成金の登場

広幅織物は洋服・輸出にも対応
小幅は和服

1914		1919			
綿糸	204 出・内	生糸	780 出	生糸	金
生糸	158 出	綿糸	763 出・内	鉄道	綿
鉄道	152 インフラ	小幅織物↓	453 内	綿糸	金
軍工廠	149 軍需	石炭	442 旧エネ	電力	電
小幅織物	92 内	鉄道	401 インフラ	広幅	広
石炭	80 旧エネ	小幅絹織物↓	397 内		
清酒	70 内	海運↓	378 好況		
鉄鋼	69 入	鉄鋼	372 入×軍		石
非鉄金属	64 入	軍工廠	315 軍需	軍工廠	軍
電力	57 新エネ	船舶 ↓	312 好況出軍	製紙	190 内文化
小幅絹織物	52 内	広幅織物	312 出		
製糖	49 内消費	清酒	240 内消費		
原動機	29 入	電力	183 新エネ		
製紙	29 内文化	製紙	151 内文化		
毛織物	28 内消費	毛織物	122 内消費	肥料	
印刷	26 内文化	肥料	111 入×化農		
小麦粉	25 内消費	製糖	104 内消費		
肥料	25 入化農	↑撚糸	101	↑製材↓	112 内震災？
広幅織物	20 出	非鉄金属	98 入×軍	非鉄金属	102 軍

凡例
 <製品名>
 赤系統：重化学工業
 緑系統：綿系統工業
 黄系統：絹系統工業

<数字>
 ゴチ：大きな変化
 着色：顕著なもの
 <備考>
 出：輸出関連
 入×：輸入停止
 内：内需関連

大戦景気

1920年代・軍縮

昭和恐慌

大戦景気の結果

債務国から債権国に

⇒植民地や中国への進出も（在華紡など）

農業国から工業国に

都市化・大衆社会化の進展

工業労働者の増加…男子・熟練工が中心に

給与生活者（ホワイトカラー）増加

経済のバブル化⇒あとしまつに苦しむ

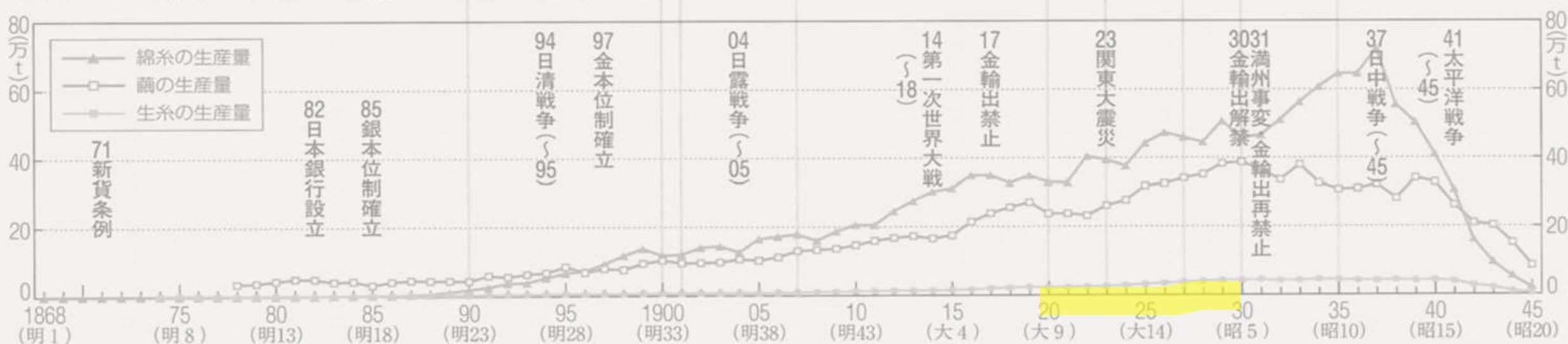
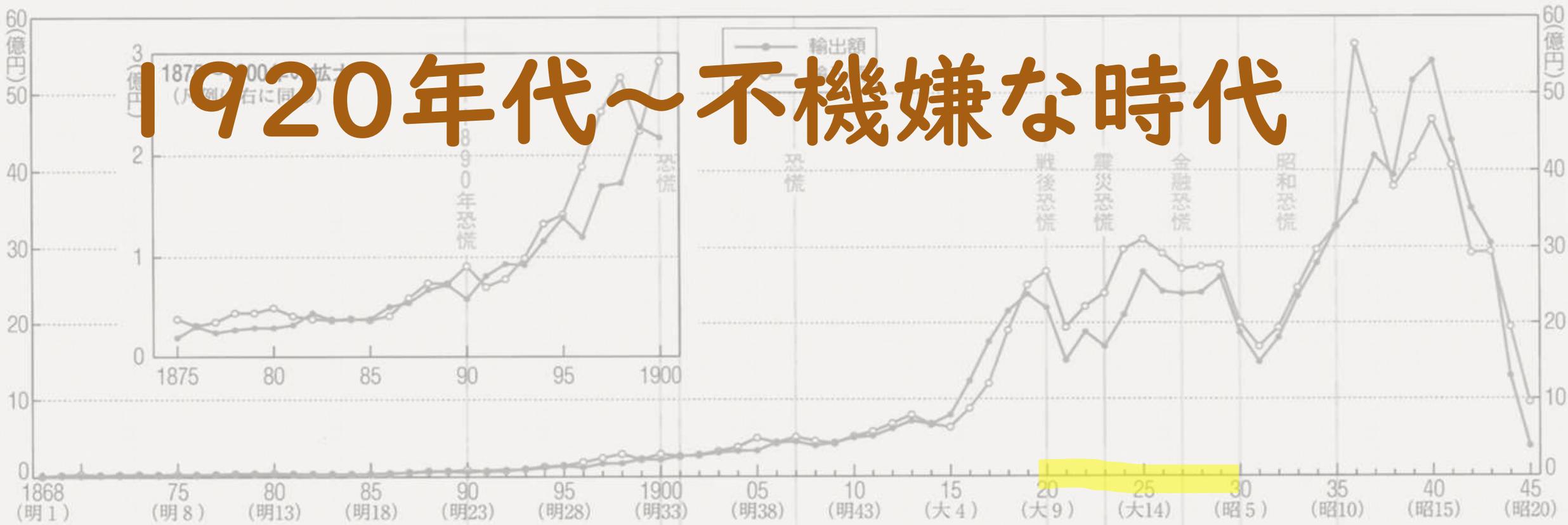
過剰生産・過剰投資・雇用拡大、大量の起業

設備投資でなく、雇用拡大・労働強化で対応

⇒生産性の低さ・賃金負担の大きさ



1920年代～不機嫌な時代



(「近代日本経済史要覧」「明治以降本邦主要経済統計」など)

1920年代。 不景気な時代?!

数字の変化は少ない
生糸780→795
綿糸763→678(※)

都市にかかわる事業
「鉄道」「電力」
「文化」「消費」

凡例
 <製品名>
 赤系統：重化学工業
 緑系統：綿系統工業
 黄系統：絹系統工業
 <数字>
 ゴチ：大きな変化
 着色：顕著なもの
 <備考>
 出：輸出関連
 入×：輸入停止
 内：内需関連

	1919		1929	
生糸	780 出		生糸	795 出
綿糸	763 出・内		鉄道	750 都市・インフラ
小幅織物 ↓	453 内		綿糸	678 出・内※
石炭	442 旧エネ		電力	658 新エネ
鉄道	401 インフラ		広幅織物	526 出
小幅絹織物 ↓	397 内		鉄鋼	378 軍縮?
海運 ↓	378 好況		清酒	301 内消費
鉄鋼	372 入×軍		石炭	245 旧エネ
軍工廠	315 軍需		軍工廠	208 軍縮
船舶 ↓	312 好況出軍		製紙	190 内文化
広幅織物	312 出		↑印刷	186 内文化
清酒	240 内消費		毛織物 ↓	176 内消費
電力	183 新エネ		製糖 ↓	158 内消費
製紙	151 内文化		↑小麦粉 ↓	146 内消費
毛織物	122 内消費		肥料	132 内農業
肥料	111 入×化農		↑広幅絹織物 ↓	130 出
製糖	104 内消費		↑工業薬品	115 化学
↑撚糸	101		↑製材 ↓	112 内震災?
非鉄金属	98 入×軍		非鉄金属	102 軍

電力の急伸
エネルギー面における
石炭との地位の交替

軍縮の影響も
鉄鋼も伸び悩み
船舶はランク外に

都市化・大衆消費
社会の誕生?

化学肥料の
着実な増加=
農村の変化

景気

1920年代・軍縮

昭和恐慌・満州事変・日中戦争へ

1920年代 大変革の時代

大戦景気の流れが定着していく＝「停滞」はしているが・・・

産業・社会構造の変化

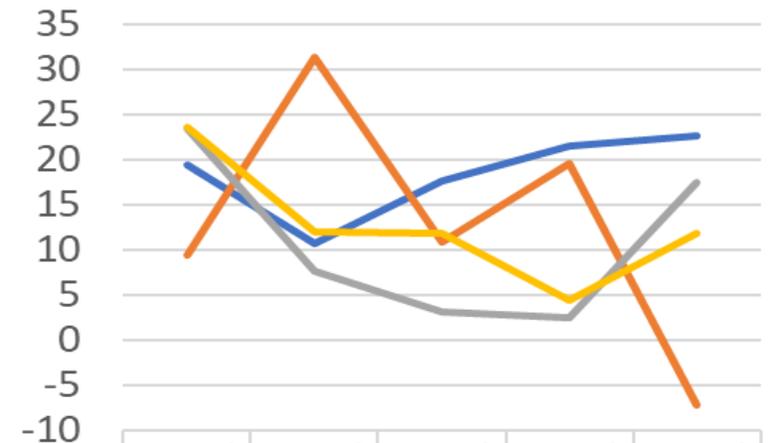
- ①農村・農業中心→都市・工業中心に
⇒人口の都市への大移動
- ②軽工業から、重化学工業へ
- ③エネルギー革命（蒸気力→電力）
- ④労働者階級の大量出現（雑業から分離）
- ⑤第三次産業・俸給生活者の増大
- ⑥知識層の広がり←中高等教育の普及

ライフスタイルの変化＝大衆社会化

⇒「豊かなアメリカへの憧れ」

経済成長率（一人あたり）

三和良一「概説日本経済史近現代第三版」



	1880's~	1890's~	1900's~	1910's~	1920's~
日本	19.4	10.7	17.7	21.5	22.7
アメリカ	9.4	31.4	10.9	19.6	-7.2
イギリス	23.5	7.6	3.2	2.5	17.6
ドイツ	23.6	12.1	11.8	4.4	11.9

1920年代～差異や格差が表面化

「貧富の差」「社会の二重構造化」など

- ①「地主と小作農」、有力者(「名望家」と一般住民
- ②「有産者と職工など貧民層」⇒資本家と労働者
- ③財閥系などの大企業と中小企業→産業の二重構造化がすすむ
- ④知的・管理的・事務的労働と、職工・女工・肉体労働
- ⑤男性と女性、被差別部落住民
- ⑥「内地人」と「外地(朝鮮人・台湾人)」人・沖縄出身

社会矛盾への怒り=社会運動の激化・多様化

普選運動など民主化、労働運動、農民運動、社会主義
女性解放運動・部落解放運動、民族運動
ナショナリズム・ファシズム



木崎村無産農民学校

木崎村の小作争議団は小学校同盟休校を決行、自主的な農民小学校を発足させた。壇上の講師は大宅壮一

***会社の規模と賃金は比例する**

第一次大戦が始まった年

昭和恐慌の真っ最中

事業所の規模と賃金が正比例の関係にある

二重構造の形成

事業所の規模と賃金は比例しない。

一番賃金が安いのは職工30人～500人規模。

つまり製糸工場や紡績工場などの多いゾーン

大企業と中小企業の二重構造が成立したことを示す。

1914年			1932年		
規模 (職工数) (人)	一日賃金 (銭)		規模 (資本金) (百円)	年間賃金 (円)	
5-10	40	100	-1	174	100
10-30	37	93	1-5	202	116
30-50	35	88	5-10	223	128
50-100	36	90	10-20	257	148
100-500	36	90	20-50	304	175
500-1000	39	98	50-100	363	209
1000-	43	108	100-500	453	260
			500-1000	534	307
			1000-5000	566	325
			5000-	671	386
平均	38	95	平均	433	249

(武田晴人『日本経済史』p216)



*ある農民の収支決算

俺たちの仕事、手
間賃に換算した
ら？

小作収支報告書(1924・岐阜)

出典：大門正克「近代日本と農村社会」

収入		支出	
(産高) 玄米2.1石	84.00	小作料 1.5石	60.22
屑米	0.91	種子代	0.50
その他	6.90	自給肥料	5.17
		金肥	2.86
		諸雑費	1.69
計	91.81	計	70.22
		差引残	21.69
		換算一人あたり手間賃	0.899

米価=40円/石で換算
1924年の米価

※岐阜県稲葉郡鶉村1924年(中部日本農民組合理由書添付資)

参考：農業手間賃	2.50	1924年 鶉村の水準
全国最低水準	1.50	組合の主張

これが大きすぎる！これをへらして都会の労働者並みの手間賃に！

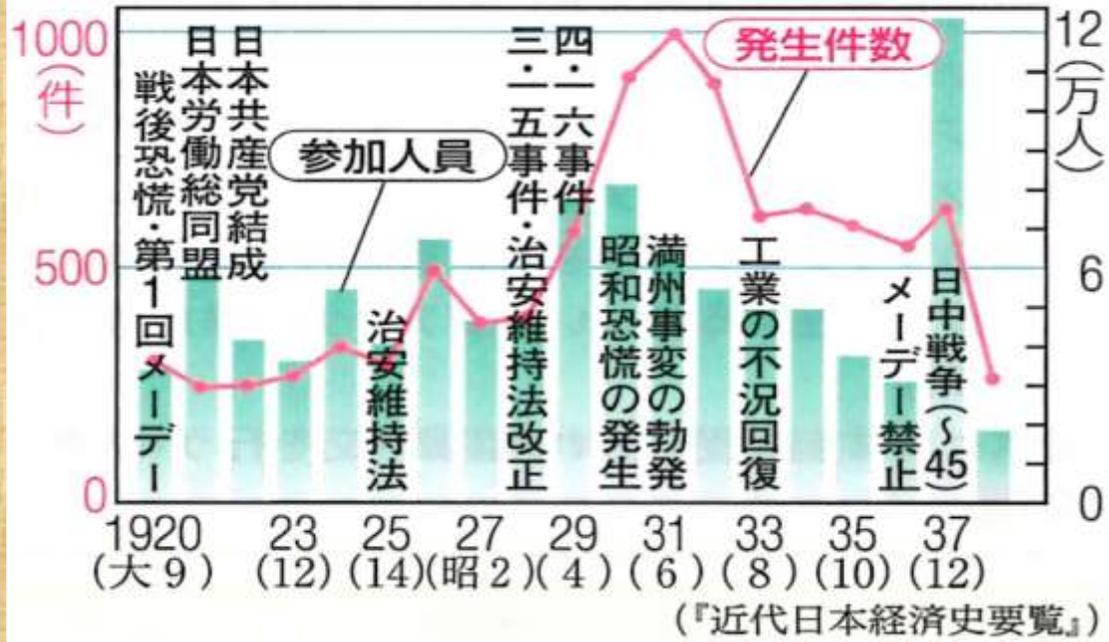
計算してわかった小作農民、一日当りの
手間賃

この地域、一日あたりの
手間賃の相場

全国の最低水準でも
この位！

こういう状態だから、娘を女工に出したり、出稼ぎにいたり、いろいろな収入の口を探すことになっていた。

1920年代 社会運動の活発化

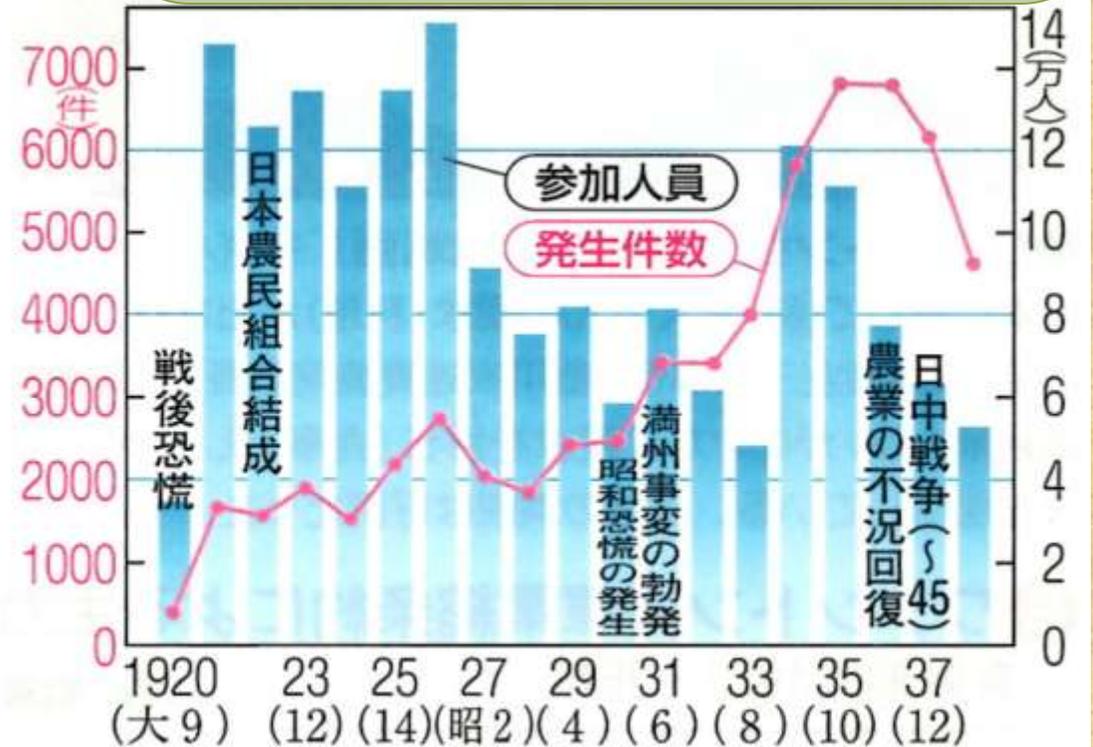


労働争議の増加

「賃上げ」「労働者の人格権」
「団結権」など攻勢的要求
→大企業では労使協調的方向も
→中小企業では急進化

小作争議の活発化

西日本中心・大規模
米価急騰にもかかわらず高率
小作料
⇒「小作料軽減」や「耕作権獲得」が目標

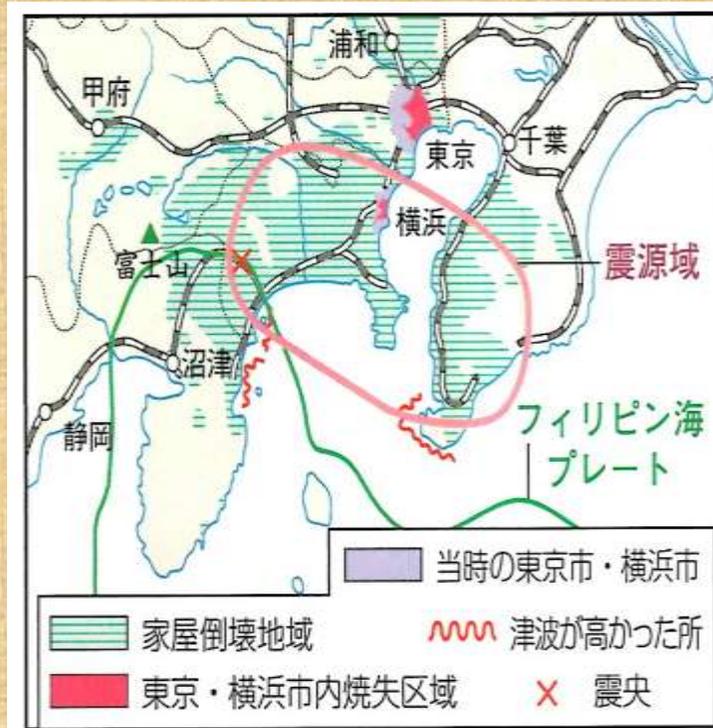


関東大震災の発生 (1923・T12)

建物18.7億円
 家財什器8.7億円
 工場2.4億円
 商品21.4億円
 計52.7億円の被害

不能になった取引
 の決済を延期など
 救済資金を提供
 (「震災手形」)

以前からの不良債
 権も「震災手形」
 で延命させる!



①家屋の被害	
全焼・流失	21万3654戸
全壊	10万9713戸
半壊	10万2773戸
小計	42万6140戸
②罹災者(総数約340万人)	
死者	} 10万5385人
行方不明	
負傷者	10万3733人
小計	20万9118人

(鹿島建設小堀研究所 武村雅之など)

(武村雅之『関東大震災』)

東渡邊銀行の破綻を
藏相、突如言明す
昨日衆院豫算總會の席上で
當の銀行の營業中に



①片岡直温蔵相*

震災手形をなんとかし
なければ大変だ!
ソフトランディングさせ
ねば

「震災手形」(不良債権)
処理は政友会とも合意済
み。政争にしないはず

とりあえず預金を
引き出して~!

3月にひきだされた 預金引き出し額
約1億円、4月危機で引き出された
のが6億円。
1927年末の全国普通銀行の総預
金残高は約90億円

ほかの銀行もや
ばいのでは?

鈴木商店と仲のよ
い台湾銀行もヤバ
いらしい。



預金保険制度もない時
代なので、なけなしの預
金を失った人々も多い

金融恐慌

1927年3月~

金融恐慌の結果

金融寡頭化と財閥の拡大

三大財閥の産業
支配が強まる



1930年	3大財閥	8大財閥	その他
鉱業	63.3%	69.4	30.6
鉄鋼	54.2%	67.7	32.3
金属・機械	37.6%	58.0	42.0
紡績	24.9%	75.1	
電力・電灯	2.3%	5.5	94.5
運輸・通信	63.8%	66.4	33.6
商事・貿易	74.2%	82.3	17.7
銀行	29.6%	53.4	46.6

(柴垣和夫『三井・三菱の百年』)

電力・電灯、紡績・金属機械などはそれほどでもない

地方・中小銀行は減少
預金は財閥系大銀行と郵便貯金に

金融恐慌をきっかけに成立した
田中義一内閣は強引な中国政策と
抑圧的な政策で暗い時代の途を開く

Ⅲ、浜口雄幸内閣(1929~31)と金解禁

(1) 政治の公明 (2) 国民精神作興 (3) 綱紀肅正

→ 政党内閣の基本精神を述べたにとどまる

(4) 対支外交刷新

→ **田中義一内閣の対中「積極」政策の否定**

幣原国際協調外交の復活

(5) **軍縮促進** → ロンドン海軍軍縮条約の締結

(6) 財政の整理緊縮

(7) 非募債と減債 → 財政緊縮・産業合理化

(8) **金解禁断行**

(9) 社会政策確立 → 労働組合法案・小作法案など

(10) 教育の更新 → 義務教育費増額



浜口雄幸 (1870~1931)
大蔵官僚から国会議員に。
1929年内閣総理大臣に

金解禁とは？



1, 「金本位制への復帰」

通貨と金の兌換 (=紙幣と金正貨の引き換え) を自由にする。

100円分紙幣=100円金貨(金75g)

=通貨発行量は金保有量によって増減

→好き勝手に紙幣を発行できない!

2, 「金輸出解禁」

国際間の金の移動を自由にする

→貿易赤字の時は金が流出=保有高減少



国際収支によって通貨発行量が変動

昭和恐慌！

金本位制の自動調整作用

ほんとにそんな
ウマいくの？

物価上昇
インフレ傾向に

輸出品は
高く輸入
品は安く

輸出減少
輸入増加

貿易収
支赤字

金輸出解禁
対外赤字分を
金で支払う
(金流出)

準備金
の減少

国内通
貨量の
増加

黒字分を金で
受け取る
(金流入)

貿易収支
黒字化

輸出増加
輸入減少

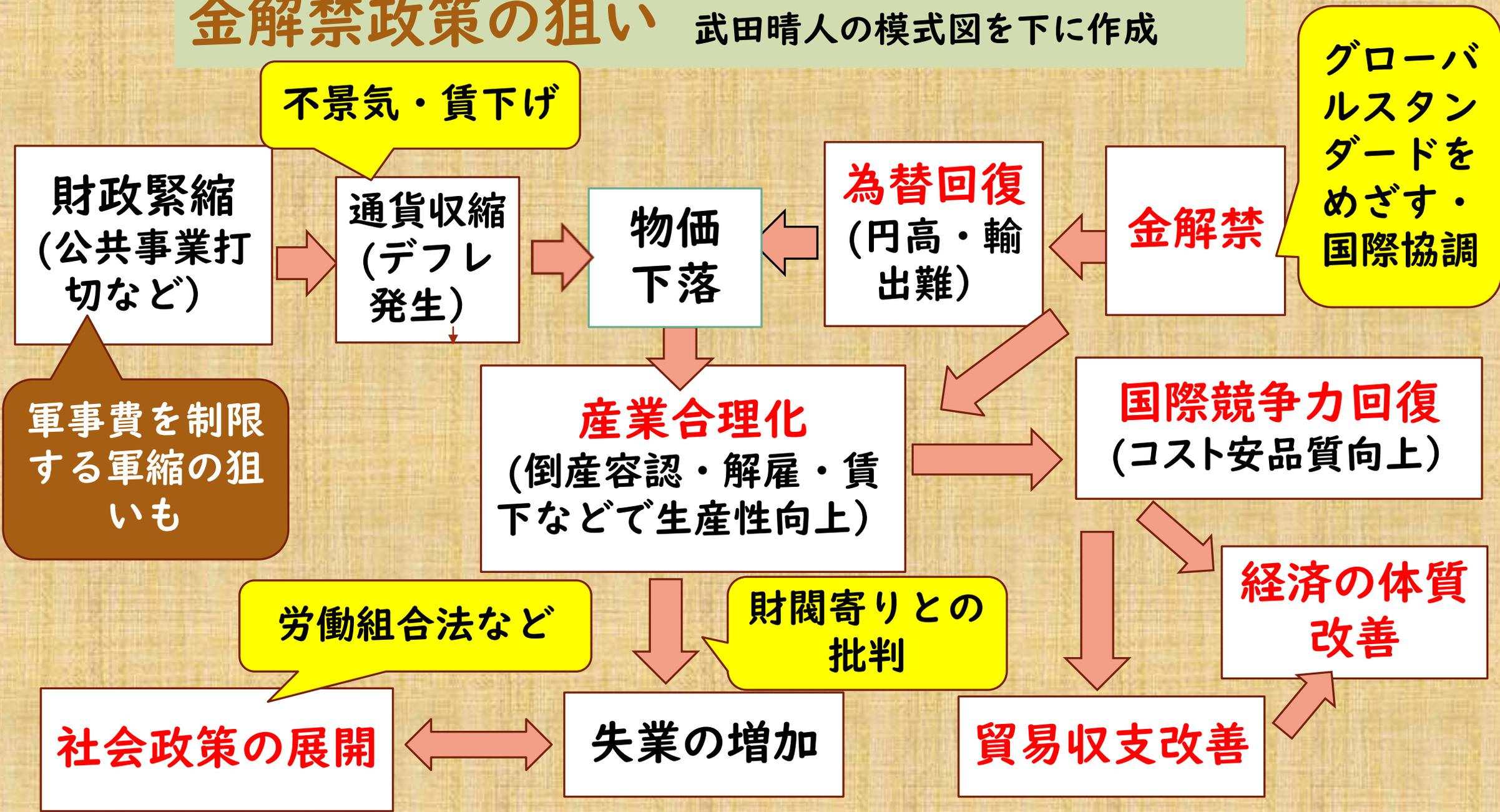
物価
下落

金本位制採用
通貨発行量を減
らす
⇒デフレ傾向に



金解禁政策の狙い

武田晴人の模式図を下に作成



昭和恐慌I

旧平価解禁論と新平価解禁論

旧平価解禁論 貨幣法で定められた通り

100円=金75g÷\$50 (\$49.945)で交換

→円安の実勢価格を円高に誘導する必要が

→デフレ政策実施⇒物価下落・不景気に

新平価解禁論(石橋湛山・高橋亀吉ら)

実勢の為替価格(円安)での解禁を主張

当時の実勢レート 100円=\$40~45

→日本の実質的な国内購買力と同等であり、
産業への被害なし

※法改正必要、産業合理化はすすまない

	1870年	1914~18 第一次世界大戦	1929 世界恐慌
日本	1871 1897	1917.9	30.1 31.12
イギリス	1816	1919.4	25.4 31.9
アメリカ	1873	1917.9	19.6 33.4
ドイツ	1871	1915.11	24.10 31.7
フランス	1876	1915.7	28.6 36.9
イタリア	1878	1914.8	27.12 34.5

フランス・イタリアは
新平価での金解禁

昭和恐慌は 金解禁以前 から始まる

旧平価解禁は、緊縮財政を伴っていた
＝公務員給与引き下げなどを計画

緊縮到来！

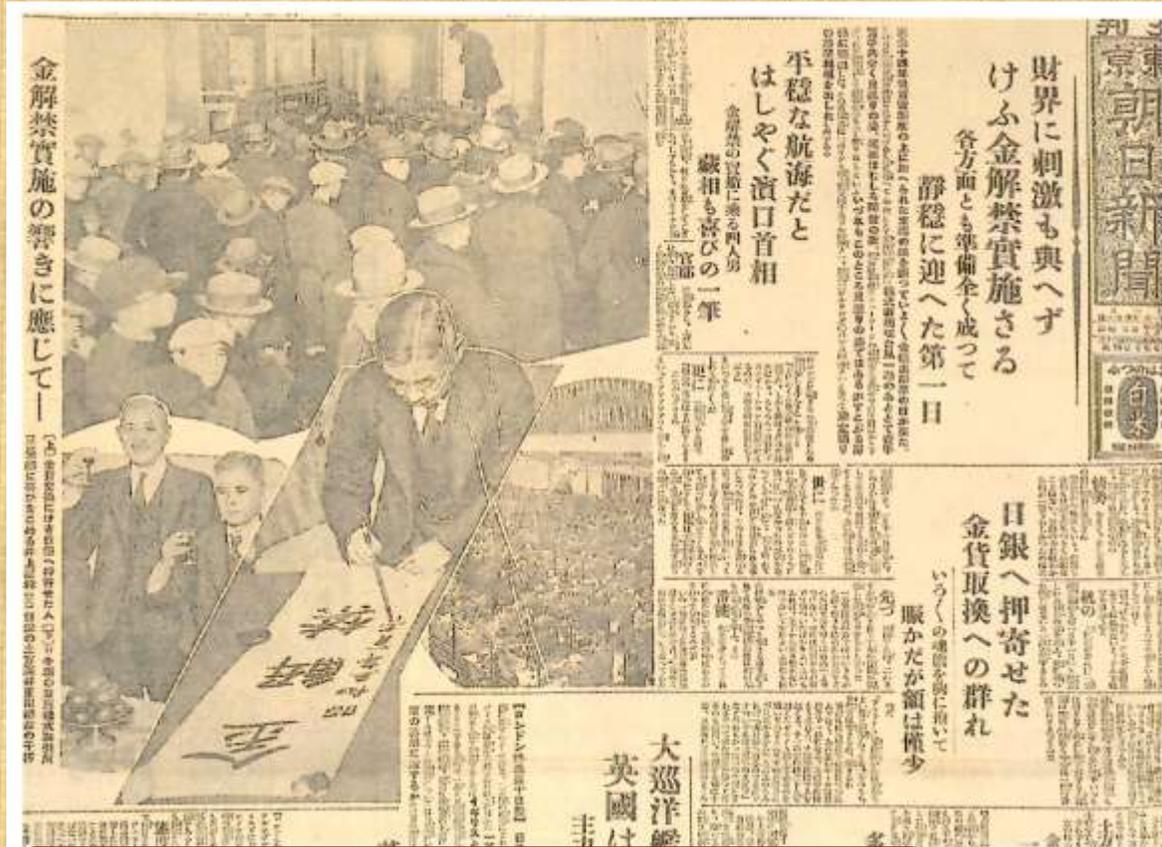
資本家は腹を緊縮（しめ）財布の口を緊縮（しめ）、事業の手を緊縮（しめ）るが、労働者は首を緊縮（しめ）るばかりだから早く救貧（たすけ）ないと命にかかはる・・・。



北沢楽天画「緊縮政策」
1930,7,6

金解禁の実行

1930(昭和5)年1月11日



平穩な航海だとはしやく濱口首相

馬鹿いへ。ボーナスやサラリーがどうなるか知れたもんじゃない。

暮らしよくなるそうですよ



57 金解禁への期待 「暮らしよくなるそうですね」「馬鹿いへ、ボーナスやサラリーがどうなるか知れたもんぢゃない」。2人の会話に濱口内閣の経済政策に対する人々の期待と不安とが交錯する。『大阪毎日新聞』1929年11月19日より。

IV、世界恐慌(1929～)

世界恐慌までの
流れを確認して
おきましょう。



世界恐慌へ

第一次大戦後の世界

アメリカの繁栄(「金ぴか」の時代)

工業製品・農産物の輸出

大量「戦時債権」の償還

ヨーロッパの経済不振

ドイツ賠償金問題→ハイパーインフレへ

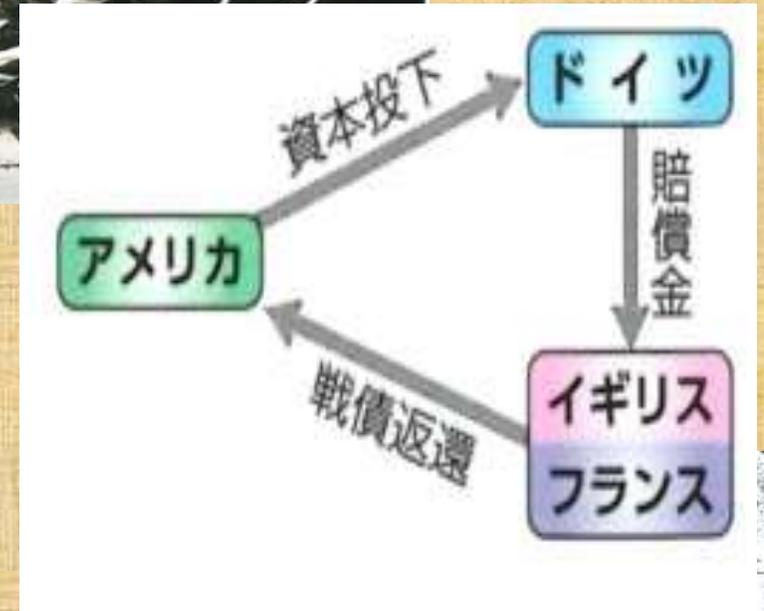
⇒アメリカ資金の導入によって危地を脱する

フランスなど国土荒廃→復興資金の必要性

イギリス⇒アジアなど市場縮小

⇒大量の対米「債務」の存在が重荷に

軍縮と国際協調の時代・・・



世界恐慌発生

1929(昭和4)年秋

銘柄株の大暴落

企業株	1929年9月 3日 高値	1929年11 月13日 安値
アメリカ缶詰	181 7/8	86
アメリカ電信電話	304	197 1/4
アナコンダ銅	131 1/2	70
ゼネラル=エレクトリック	396 1/4	168 1/8
ゼネラル=モーターズ	72 3/4	36
モンゴメリー=ウォード	137 7/8	49 1/4
ニューヨーク=セントラル ラジオ	256 3/8	160
ユニオン=カーバイド&カーボン	101	28
U=S=スチール	137 7/8	59
ウェスティングハウスE&M	261 3/4	150
ウールワース	289 7/8	102 5/8
エレクトリック=ボンド&シェア	100 3/8	52 1/4
	186 3/4	50 1/4

10月24日 NY株式史上最大の暴落

1289万株の売買(「暗黒の木曜日」)

例:GE株\$400→\$315(朝)→\$283(夕)

10月29日 1日で80億ドルから90億ドルの損害(NYタイムス)

1600万株の売買(平常は400万~500万株)

11月13日 主力株・花形株が底なしの再底値に(9/3→11/13)

AT&T\$304→\$197 GE\$396→\$168

GM\$72→\$36 USスチール\$261→150

アメリカ缶詰\$181→86

アメリカへの影響

GNPは半減

内訳	1929	1930	1931	1932	1933
GNP(億ドル)	1,040	910	760	590	560
雇用(百万人)	47.6	45.5	42.4	38.9	38.8
失業率 (%)	3.2	8.7	15.9	23.6	24.9
投資 GNP比 (%)	16	11	7	2	3
工業生産物指数 (%)	100	83	67	52	63
鉄鋼生産	100	72	46	24	41
農業貸金指数 (%)	100	94	71	53	48

四人に一人が失業

設備投資は不調

鉄鋼生産量も1/4に

アメリカへの影響

一杯のスープを求め
る背広の紳士たち



(当時着色された写真)



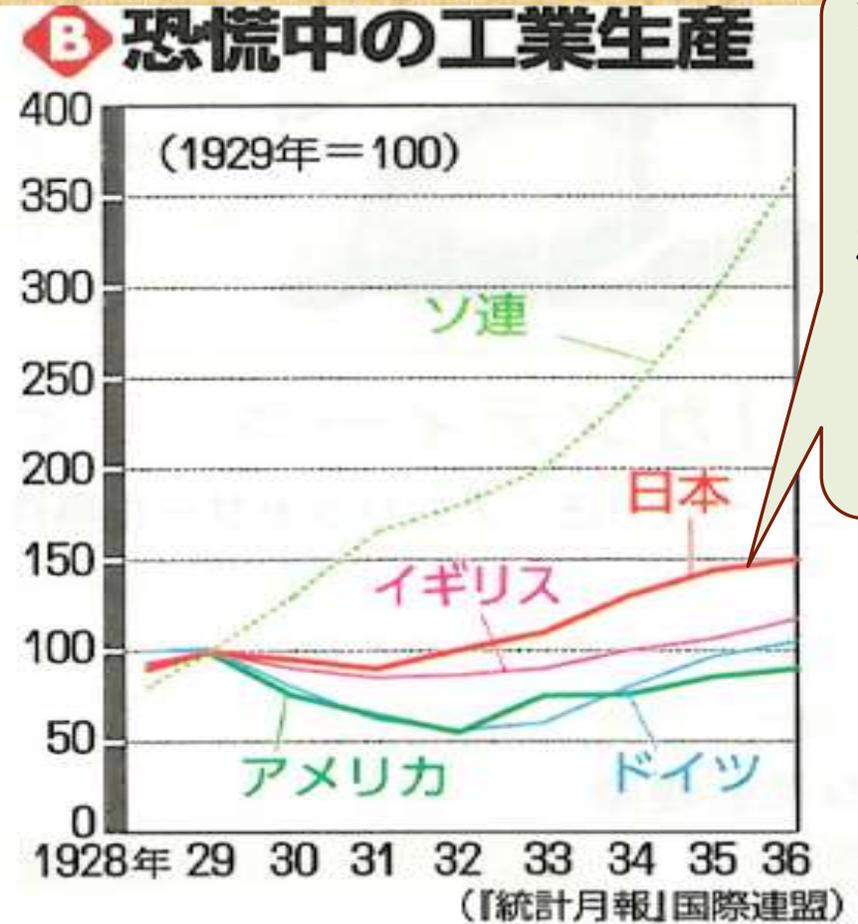
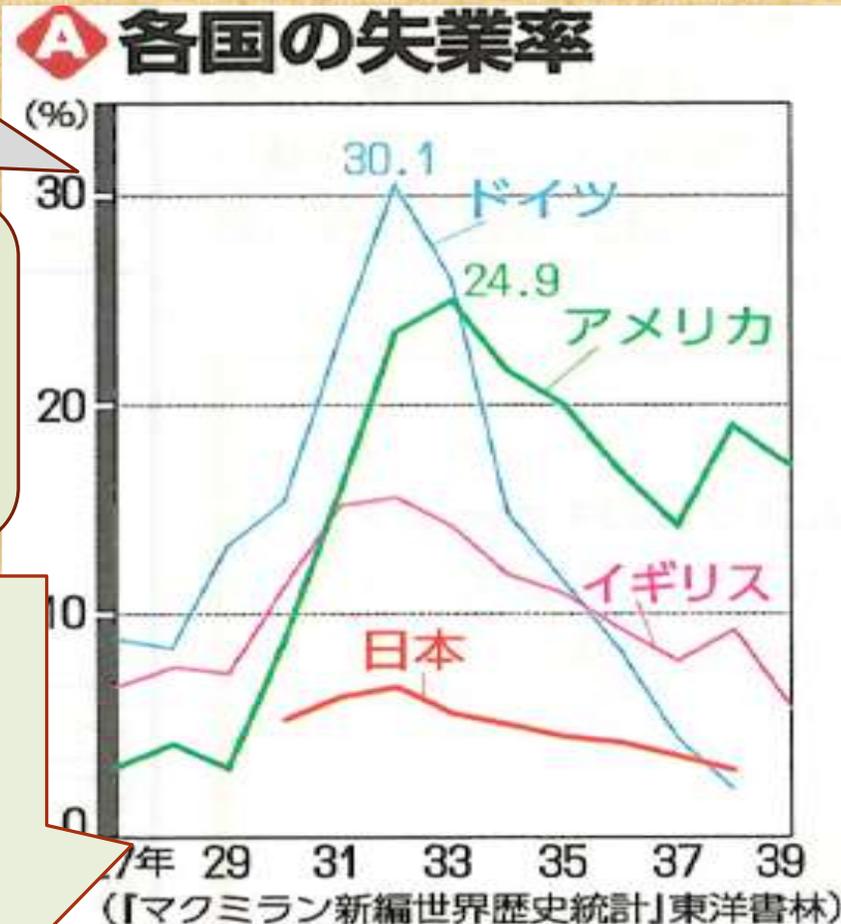
失業者たちのバラック村は
フーバー村と呼ばれた

大恐慌下の世界比較 (失業率・工業生産高)

ドイツ・アメリカの失業者率の高さに注目

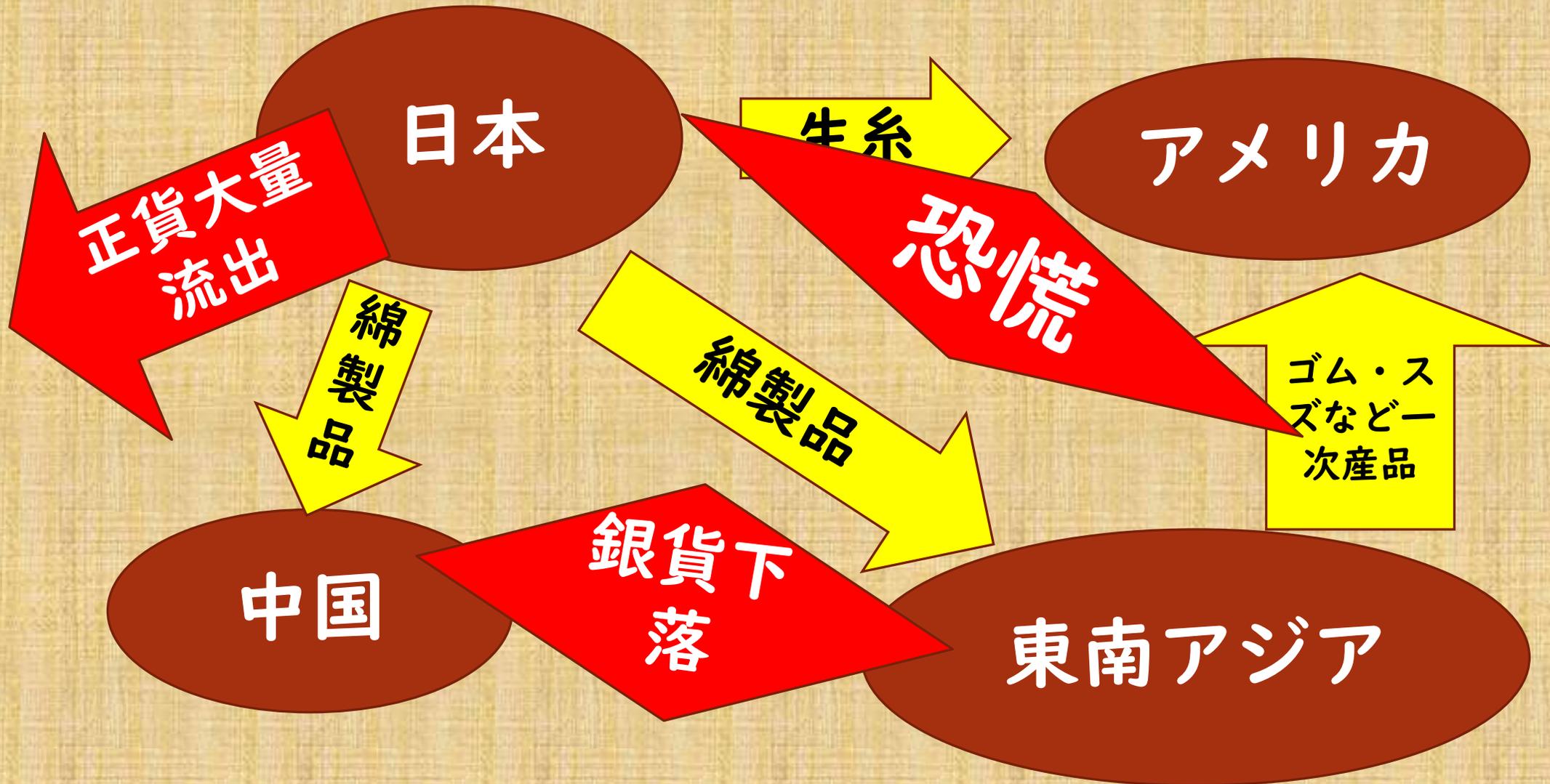
アメリカには失業保険の制度などが無いので特に深刻。

日本の失業率の低さは農村などの膨大な潜在的失業の中に隠れているとの指摘も。



客観的にみれば、日本の落ち込みは少ない

昭和恐慌2 世界恐慌、日本へ



V、昭和恐慌へ



貧民調査をする警察 (大阪市)



くず米で腹を満たす東北の農家 (1934年)

昭和恐慌の発生

「まず巨額の金流出し始めた」

→「解禁後わずか2ヶ月で1億5000万円の正貨流出であった」

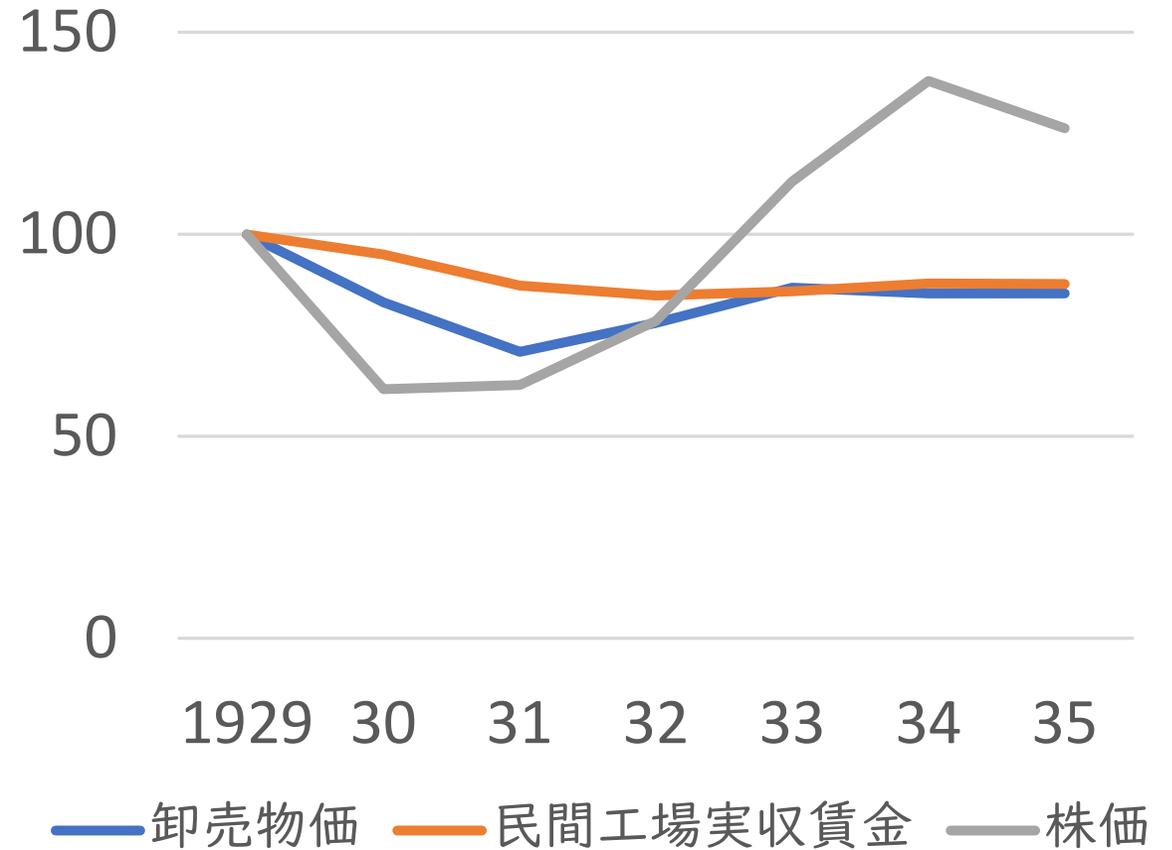
1930年末には合計2億8800万円に

「株価・物価の下落もすさまじい」

「有力株が軒並み暴落した」

「賃金が下がり、解雇が始まる」

株価・物価（卸売）・賃金の変化



株式・社債などの有価証券の時価は、浜口内閣成立時にくらべて、48億8000万円も値下がりした

昭和恐慌期の 経済指標

内閣成立直前と29年12月
を比較すると、卸売物価
27%強、小売物価23%強
の下落
「なかでも生系の下落は息
をのむほど」66%の落ち込
み

恐慌の底は
1931~32年。
以後、急回復
ただし、生系を除いて。

昭和恐慌期の経済指標

		1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935
卸売物価		100	83.2	70.9	78.1	86.8	85.4	85.4
	米価	100	87.4	63.5	72.8	73.7	89.8	102.3
	生系価格	100	65.8	45.1	53.2	57.8	40.7	54.4
	綿系価格	100	65.5	56.1	63.7	88.5	93.5	91.0
生産量	生系	100	100.6	103.5	98.6	99.6	106.8	103.3
	綿系	100	90.4	91.9	100.6	111.0	124.3	127.5
	粗鋼	100	99.8	82.1	104.6	139.4	167.6	205.1
民間工場労働者数		100	90.0	81.7	82.0	89.9	100.2	109.7
民間工場実収賃金		100	95.0	87.3	84.8	85.9	87.8	87.7
	株価	100	61.7	62.7	78.6	113.1	138.0	126.3

昭和恐慌I

失敗

金本位制の自動調整機

物価上昇

インフレーション傾向

輸出は
輸入は

輸出減少
輸入増加

貿易収支赤字

金流出

金輸出解禁

対外赤字分を
金で支払う
(金流出)

準備金の減少

国内通貨
貨量の増

黒字分を受け取る
(金流入)

貿易収支黒字化

輸出増加
輸入減少

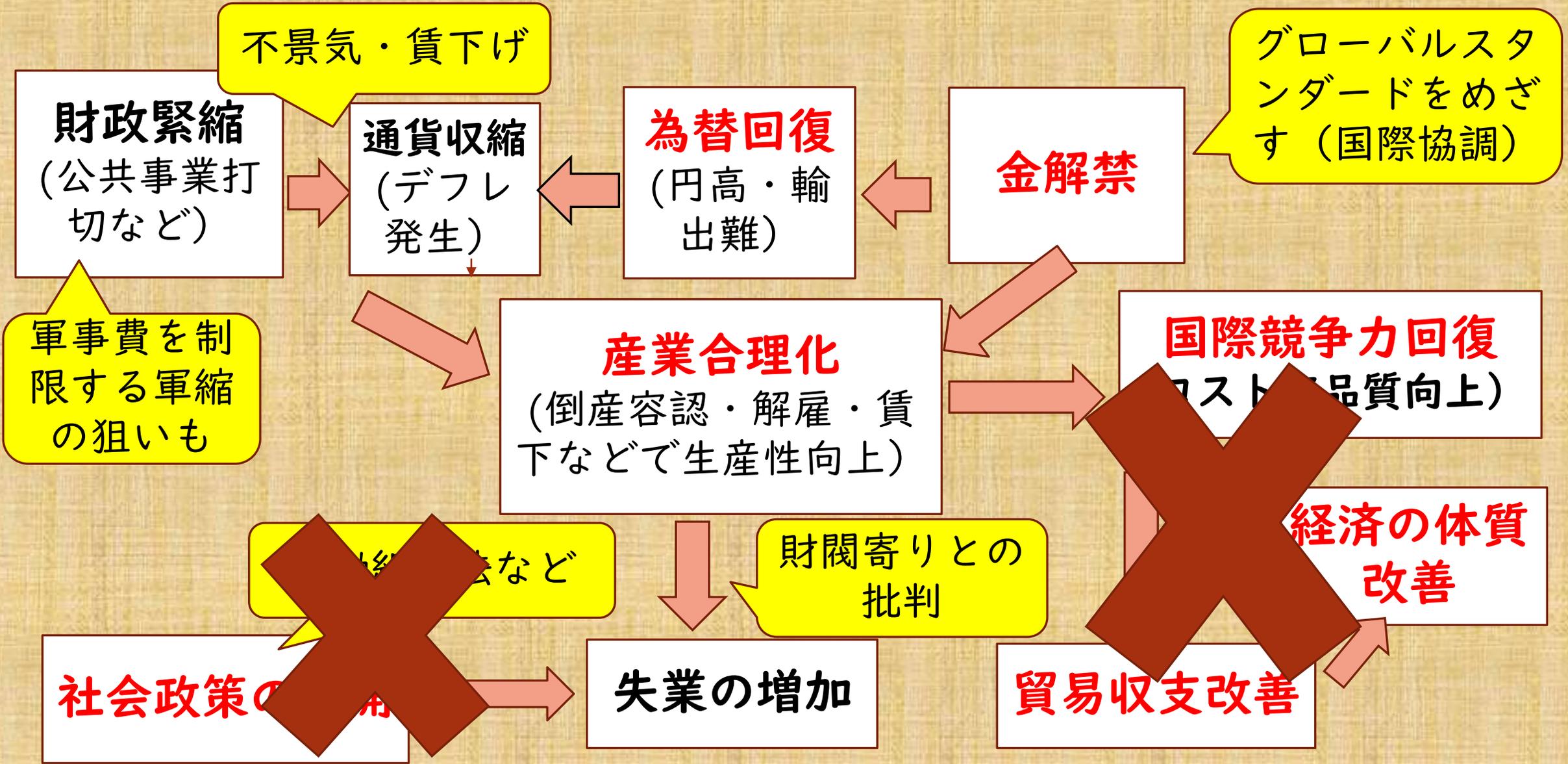
物価下落

金本位制採用
通貨発行量を減らす
⇒デフレ傾向に

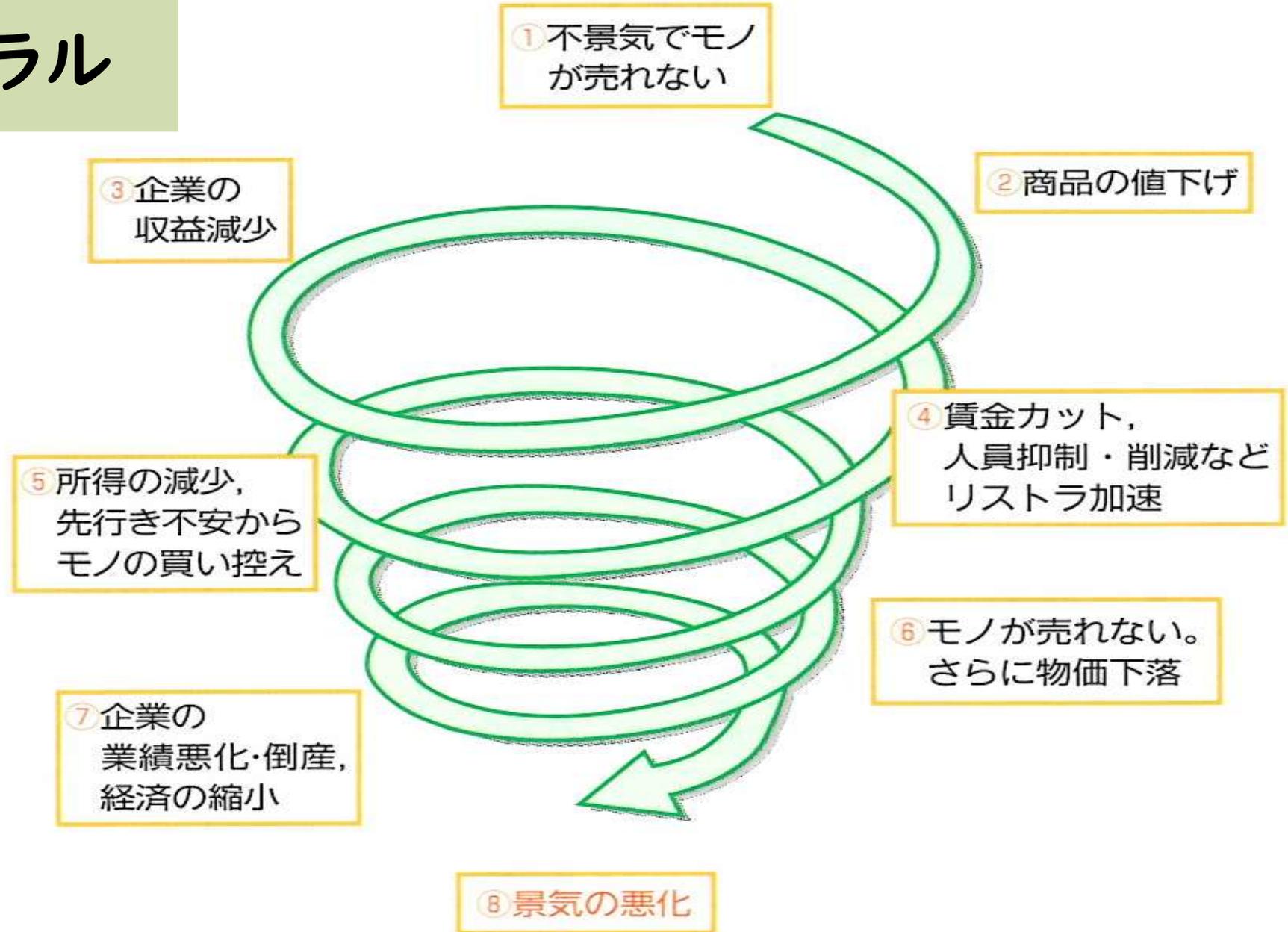
世界恐慌



金解禁と昭和恐慌



デフレスパイラル



昭和恐慌2 失業者の発生

とはいえ、
今まで通り
仕事を続け
られたもの
多い

恐慌によって約20%の
労働者が仕事を失い、求
職者は200万人を超えた。
賃金も低下した。

📍恐慌の深刻さを報じる
新聞 1930年1月27日。

**校門を出る若人に
暗い影さす就職難**

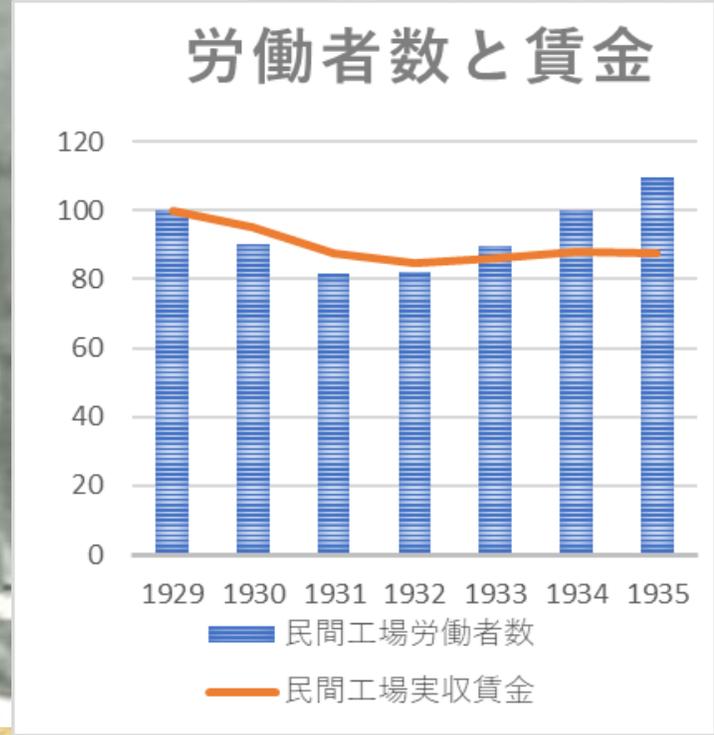
**官廳も會社も皆人減らしに
また起る社會問題**

ついで聞かざるべき
は就職難といふ暗い影
来た。来る三月半迄
卒業するものは約二
するが、これに際して
職の官廳、銀行會
そい見ると、いづれ

用したが、不足だったので本年は
八十名は減らさねばなるまいと
しい好景だが、これは例外で
に多数の三井礦山では昨年百金
を減らしたため本年は一人も採用
る余裕がなく、やつと二千名位
本年を要す程度とならうといふ

に一人も採用せぬといふ意見が
相対強く、過剰人員を自然減少
によつて整理したい意であるが
本年は二萬トンの飛田、秩父
平陸、平安、比叡、氷川の六汽
船を完成し外國航路につくので
そのため別に人員を要求する開
係もあり舊制學校出は相當量
出来るらしく他方面の卒業生に

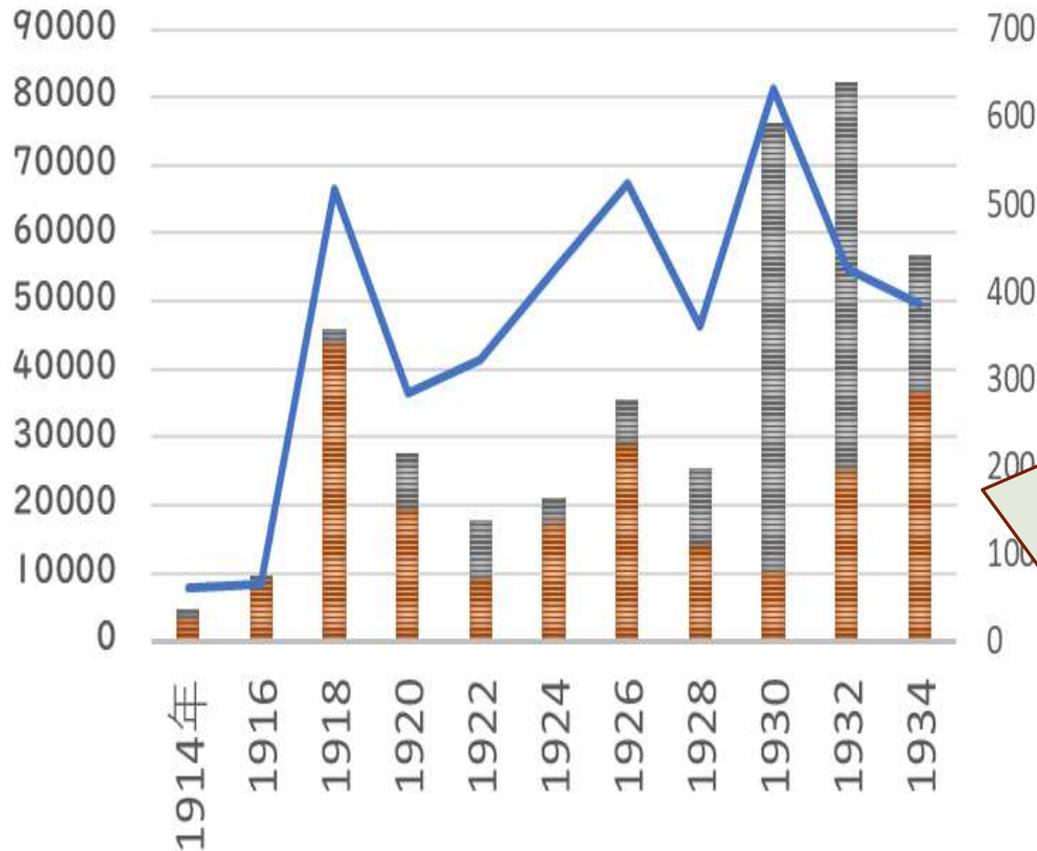
はず、法政は藤田一
これも中込が多くて
岸原へ相談を持めん
戸海上へゆくことに
も一人で鈴木は朝鮮
製ば所へ入るとの事
帝大の激務、



昭和恐慌 労働争議の 活発化

当時のビラ

労働争議の件数・参加者・内容



20年代と異なり、**解雇反対、賃金支払い要求**など防衛的な要求が増える。
急進化の傾向。
参加人員・件数も増える。
一件あたりの人数は減少している。

(法政大学大原社会問題研究所蔵)

せ倒を閣内氣景不口決

全労働者の大同團結のみが最後の勝利だ

働かせろ!! 喰わせろ!!
工場閉鎖絶体及対!! 解雇絶体及対!!
賃金値下時間の延長絶体及対!!
健康保険金資本家政府全額負擔
政府は最低賃金を保証せよ!
失業者は最低賃金を保証せよ!
失業者に無料食券を出せ!
政府は失業者の生活を保証せよ!

盟同争闘止防業失

貴久理上川 又三一目丁三邊原管市戸神

全國を襲ふ失業の嵐に扱へよ
結束して起て! 全労働大衆諸君!!

昭和恐慌2

東北の飢饉

1930(昭5)	豊作飢饉
1931(ㄥ6)	東北・北海道 で大凶作
1932(ㄥ7)	凶作
1933(ㄥ8)	豊作飢饉
1934(ㄥ9)	東北大凶作

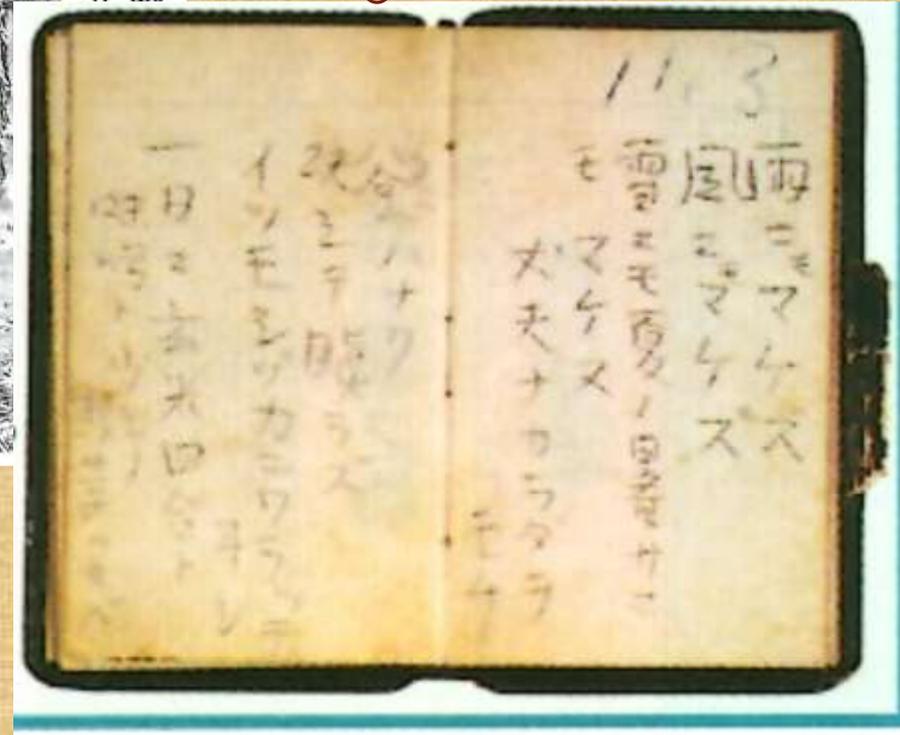
飢えに苦しむ
子どもたち



10 飢

宮沢賢治の「雨
にも負けず」の
詩はこの時期に
書かれた

優秀な兵士を輩出する東北地方での飢饉は陸軍将校の危機感を高めた。



農村不況の深刻さ

「身売り」と欠食児童

- ① 1930年 **米の大豊作** + 購買力激減 + 朝鮮米移入
豊作貧乏に（米価の急落 1929年度の半分に）
- ② 1931・34 **東北・北海道の大凶作** 平年作6割に
自作農の60%小作農の75%が赤字⇒差し押さえ
わらびの根、大根の葉、腐ったジャガイモ、デンプンかす、よもぎが常食に
- ③ **身売りの続出…東北・北海道に集中**
最高は東京（7442人）＝都市下層社会の生活苦
- ④ **欠食児童…岩手県6.4万人**
ひえ、ナラやトチの実の弁当も
- ⑤ 朝鮮の米作…米作モノカルチャア・内地向け高級米
産高の約半分を内地に移出＝飢餓移出
⇒米不足分の7割を負担
内地米の調整弁に⇒打ち切り（‘34）と供出強要



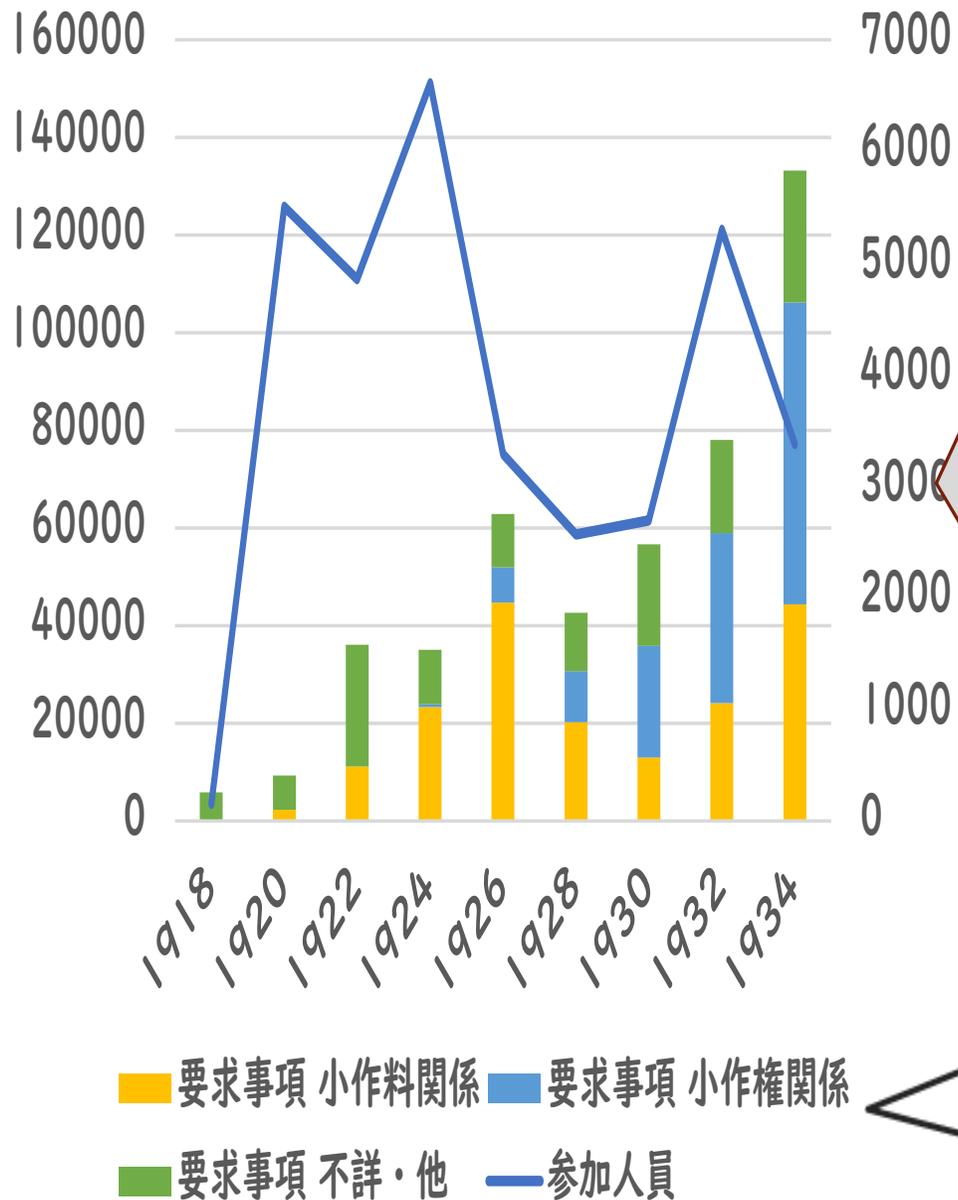
娘を売りたい親はいない
・山形1466人、秋田1156人など
・芸妓9576人、娼妓7549人、雇女（私娼）2232人
・芸妓1200～400円、娼妓1000～500円、酌婦400～200円
⇒親の手取りは半分、他は経費！
（小作農収入600～700円/年、大卒初任給73円）

農村不況 小作争議と テロの横行

農民不況の深刻さ

- ① **小作争議**の増加深刻化
- ② 農民を基盤とした
農本主義右翼＝テロ活動
 - ・井上日召＝血盟団事件
 - ・愛郷塾＝五一五事件へ参加
- ③ **時局匡救運動 (1932)**
⇒官僚主導の農村政策に
- ④ **満州移民の開始 (1933)**

小作争議・件数・参加数・要求



恐慌期は**土地取り上げ反対・耕作権確保**など防衛的内容が多い。
参加者はへるが、件数は増加、内容の深刻さが増す。
東北や甲信。地方中心に

小作料関係：
小作料引き下げなど
小作権関係：
土地取り上げ反対・耕作権確保など

不穏な動き クーデタ計画とテロ

- 1930年11月 浜口首相狙撃事件
- 1931年 3月 クーデタ未遂 (三月事件)
- 9月 **柳条湖事件 = 満州事変勃発**
- 10月 クーデタ未遂 (十月事件)
- 1932年2~3月 血盟団事件
⇒井上前蔵相ら暗殺される)
- 5月 **五一五事件**
⇒犬養首相暗殺される
- 1933年 2月 小林多喜二、虐殺される
- 4月 滝川事件(京大事件)
- 1934年11月 クーデタ未遂(士官学校事件)
- 1935年 2月 天皇機関説問題
⇒8月 国体明徴声明
- 8月 相沢事件⇒永田鉄山暗殺
- 1936年 2月 **二二六事件 = クーデタ事件**

恐慌下の人々の不満を背景に、軍部・右翼はクーデタ未遂事件をおこしたり、テロ活動を活発化させる。

ついには、独断で軍事行動=戦争を始める。

昭和恐慌下の世相 街に響く古賀メロディ



古賀 政男(1904~1978)
昭和期の代表的作曲家
ギタリスト。



「酒は泪かため息か」
作詞高橋掬太郎
1931年藤山一郎の歌
唱で大ヒットした



自殺を図った古賀が夕
焼けを見て浮かんだ詩
にメロディをつけた。
1932年、藤山一郎の
歌唱で大ヒットした。

昭和恐慌下の世相

傾向映画

傾向映画

1929年(昭和4)から1931年にかけて、当時の経済恐慌や社会文化状況を反映して、階級社会の暴露や闘争を描いた作品



何が彼女をさうさせたのか
暗い家庭環境から養育院に入った少女が、様々な苦難を体験し、最後に辿りついた宗教施設でも欺瞞に接し、放火犯となる。

藤森成吉作・鈴木重吉監督(1930)

大学は出たけれど

大学卒業者の就職率が約30%という不況の底にあった昭和初期を舞台に、職に就けない求職者が奔走するさまを描いたコメディ映画

小津安二郎監督・田中絹代主演



昭和恐慌下の世相(3)

エロ・グロ・ナンセンス

エログロナンセンス

昭和五年に使われ

はじめた流行語

エロチック(煽情的)

グロテスク(怪奇的)

ナンセンス(ばかばかしい)

背景にある
当時の世相へのい
らだちや絶望感の
存在を指摘する声
も



現代 獵奇尖端圖鑑

これ一冊で、お、何と
身も心も尖端の春に
酔ふことよ

全身
エロチック篇・グロテスク篇
ナンセンス篇・レヴュー篇
スポーツ篇・尖端篇
ホース篇・奇観篇

大附録、尖端と獵奇の考察、五十頁

定價貳圓八拾錢

最寄りの
書店で
實物を
御覽下さい

社 湖 新

**「グロテスク新年號」
死亡御通知**

愚息「グロテスク新年號」儀サント、母親に生みの苦し
みを味はせ、漸く出産致せし甲斐もなく、急性發禁病の爲
め、昭和三年十二月廿八日を以て、長兄グロテスク十二月號
の後を追ひ永眠仕り候。天死する子は美しい。とは子を
失つた親の愚痴とは存じ候へども、お察し被下度候、
生前御愛顧を蒙りし諸氏の御期待に叛きし段は何んとも残念
の至り、愚息も草場の陰にて、口惜し涙にむせび居る事と存
ぜられ候、遺骸の儀は好都合にも、所轄三田署に於て一年間
保管の上、茶室に付して居る事に相成り居り候へば、これは
かりはせめても、光榮と存じ居り候。

猶遺言に依り、供花放鳥の類は一切御断り申上
候へ共第四子「グロテスク」二月號「出産の場合」は
誕生祝として賑々しく御聲援被下様願上置候

一九二八年十二月の暗い暖い夜
東京三田

社 文 藝 市 場 社

昭和恐慌下の世相

浅草の繁栄と東京音頭



満州事変の発生

最初は軍中央も
内閣も不拡大に
動いたが

1931年9月18日、関東軍（日本軍の満州守備軍）が「満州」の奉天郊外柳条湖で中国側の攻撃を受けたと称し軍事行動を開始。「満州事変」に発展

新聞は、関東軍の行動を支持し、
陸軍中央さらには政府も容認。
十五年戦争開始



事態を拡大するな！
けふ緊急閣議の結果陸相より
関東軍司令官に

責任は支那側にあり
林奉天總領事の逆襲

【外務省消息】「支那の軍閥は、日本に對して、何等の責任も負ふべきでない」として、支那の軍閥に起因する事案に對しては、北門外は外人も結節の處であり日本軍の攻撃が原因に及ばば重大であるから時に御配慮を望むはしむ。支那の軍閥は、支那の軍閥に起因する事案に對しては、北門外は外人も結節の處であり日本軍の攻撃が原因に及ばば重大であるから時に御配慮を望むはしむ。



守れ満蒙-帝國の生命線

日本民族の血と汗の
結晶！特殊權益
断じて侵害を許さず

關東州の租借
南滿洲鐵道經營

滿洲事變導火線
何故日本は起つた？
權益蹂躪と排日
この暴戾の事實を見よ

誘因 遠因

世界恐慌の深刻化
「金本位」体制
崩壊へ



外国政府がアメリカに負っている債務取り立てを1年間猶予する。各国政府間でも賠償と戦災の取り立てを延期してほしい
(byフーバー)

1931年5月オーストリア最大の銀行破綻

6月独：不況深刻化

⇒首相「賠償金支払い能力の限界」と言明

米：大統領、国際債務の1年間支払猶予

(フーヴァーモラトリウム)を提案

7月独：外国資金を凍結(金本位制離脱)

⇒英：金正貨の支払い要求殺到

9月21日 英：金本位制の離脱とポンド切り下げを決定

⇒英連邦・スカンジナビア諸国追随

⇒世界で金本位制崩壊の観測広がる

米からの金流出→公定歩合引き上げ!

⇒日：円売リドル買いの動き活発化

1931年12月日本金輸出再禁止(金本位制離脱)

1933年3月米：事実上の金本位制離脱

金解禁政策 の終焉

1931年6月 第二次若槻内閣(井上蔵相留任)
 9月18日 柳条湖事件(→満州事変開始)
 9月21日 イギリス、金本位制からの離脱
 世界で金本位制崩壊の観測広がる
 財閥系大銀行などによる円売リドル買い
 (→金流出)活発化



井上蔵相、金売り・公定歩合引上げなどで対抗
 ⇒安達内相の挙国一致内閣の提唱→閣内不一致に



12月11日 第二次若槻内閣総辞職
 =「金解禁」政策の破綻
 12月13日 犬養内閣成立・高橋財政の開始
 「金輸出再禁止」=金本位制離脱

円売ドル買いの実態		
単位：百万円		
ナショナルシティ銀行	2,73	アメリカ系?
住友銀行	64	住友
三井銀行	56	三井
三菱銀行	53	三菱
香港上海銀行	40	イギリス系
三井物産銀行	40	三井
朝鮮銀行	34	国策銀行
三井信託銀行	13	三井系
その他	1,87	
正金ドル売り総額	7,60	

中村政則『昭和の恐慌』p287より作成

高橋財政 金輸出 再禁止

1931年12月犬養毅政友会内閣
高橋財政=『大きな政府』政策へ
通貨量の拡大=インフレ政策へ

①金輸出再禁止=管理通貨制度に移行

管理通貨制度…準備金とは無関係に通貨を発行できる。
⇒いくらでも紙幣を発行できる!

②大量の赤字国債を低金利で発行

→いったん全額を日銀が引き受け、
景気上昇後に日銀が販売=インフレと過熱を防ぐ
通貨量は約8倍強に膨張



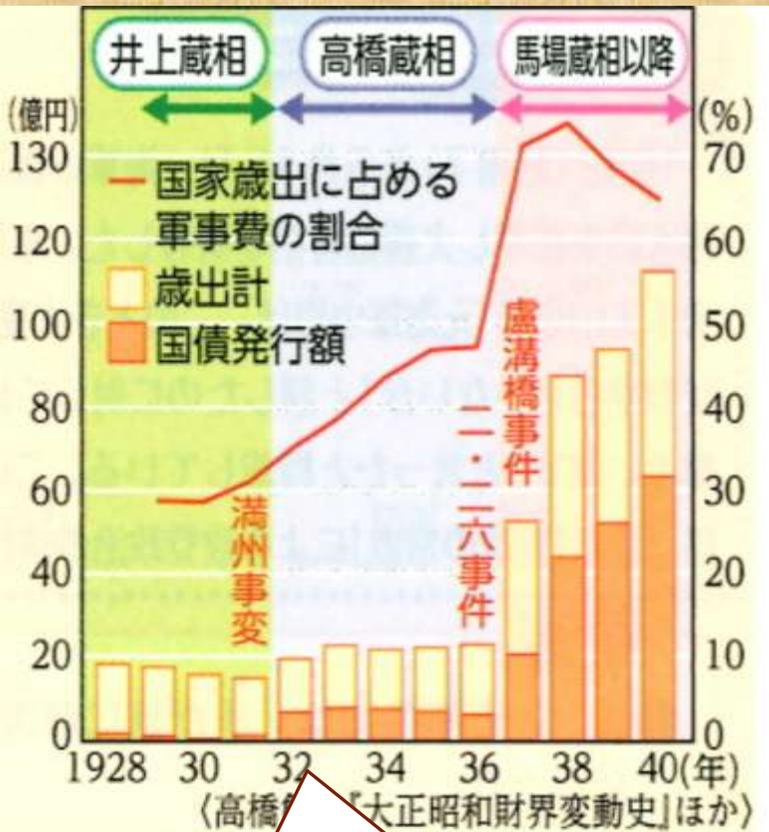
インフレ発生=円暴落による円安効果

1\$=28~29円に→日本製品、激安に



100円の製品が
40円に!

高橋積極財政の展開



国債は8倍強に
軍事費は3倍増に

◎積極財政＝有効需要拡大

①公共事業の実施

⇒農村への時局匡救事業など

②軍需予算の拡大

↑満州事変の拡大に対応

・重化学工業の急速な回復

⇒軍部の際限ない予算要求へ

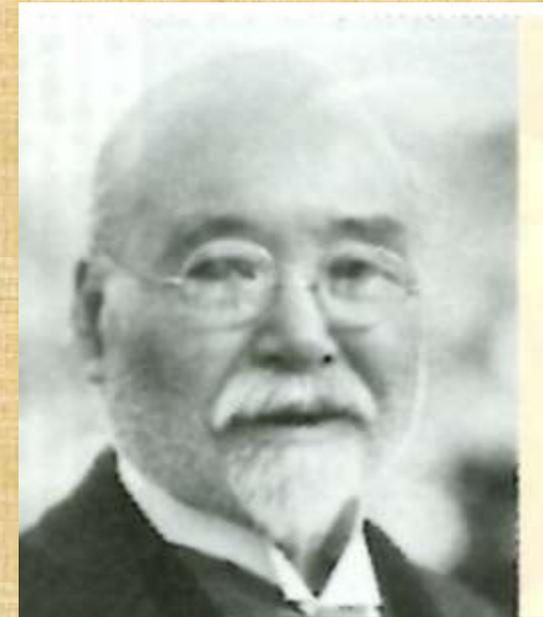
◎急速な輸出拡大

円安と恐慌下の産業合理化＝強い国際競争力

＝安価で高品質な製品の提供が可能に

⇒東南アジアなどへの急速な輸出拡大

⇒恐慌から世界で最も早く脱出に成功



高橋是清「日本のケインズ」とも呼ばれる

高橋財政

綿工業の急速な海外進出

価格は1931年にかけて急落するが、生産高は最低でも90%前後。以後、価格上昇とともに生産が急上昇する

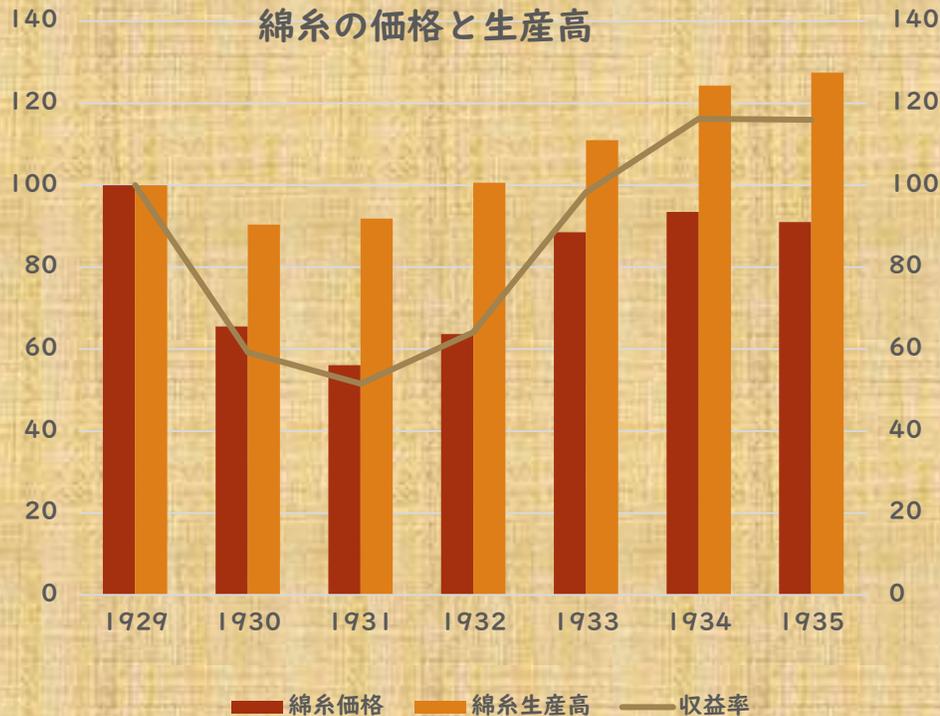
貿易量の増加

蘭領インド(現インドネシア)における綿布のシェアの変化

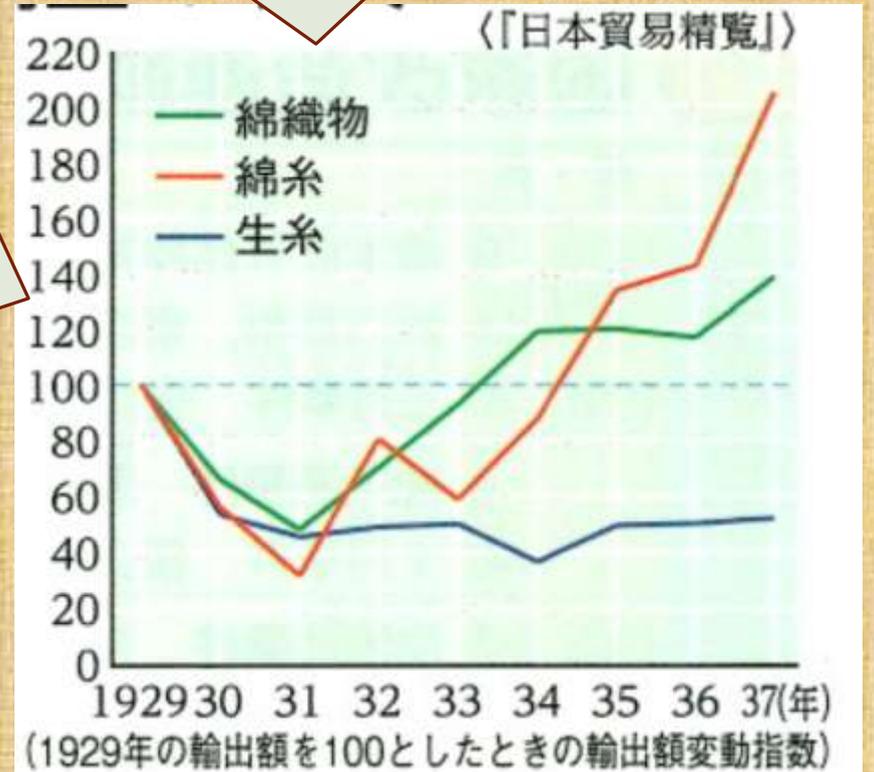
日本製 41%→84%

オランダ製 28%→5%

イギリス製 20%→3%



日本の急激な輸出拡大は不正な廉売(ソシアルダンピング)との欧米諸国の強い反発を買う



高橋財政がもたらしたもの

産業別ランキング

数字の変化の大ききさにも注目

重化学工業が半数を占める。とくに鉄鋼が首位に

	1919		1929		1937
	780 出	生糸	795 出	鉄鋼	1645 軍・重工業化
	763 出・内	鉄道	750 都市・インフラ	綿糸	1054 出
織物 ↓	453 内	綿糸	678 出・内※	鉄道	909 都市・インフラ
	442 旧エネ	電力	658 新エネ	電力	835 新エネ
	401 インフラ	広幅織物	526 出	広幅織物	735 出
絹織物 ↓	397 内	鉄鋼	378 軍縮?	生糸	510 出・不振
↓	378 好況	清酒	301 内消費	工業薬品	505 化学
	372 入×軍	石炭	245 旧エネ	石炭	379 原料
廠	315 軍需	軍工廠	208 軍縮	軍工廠	355 軍拡
↓	312 好況出軍	製紙	190 内文化	↑毛糸	335 満州?
織物	312 出	↑印刷	186 内文化	↑人絹糸	332 内出化学
	240 内消費	毛織物 ↓	176 内消費	製紙	326 内文化
	183 新エネ	製糖 ↓	158 内消費	清酒	316 内消費
	151 内文化	↑小麦粉 ↓	146 内消費	肥料	311 農・化学
物	122 内消費	肥料	132 内農業	↑電気機械	296 重工
	111 入×化農	↑広幅絹織物 ↓	130 出	↑人絹織物	285 内出化学
	104 内消費	↑工業薬品	115 化学	印刷	259 内文化
糸	101	↑製材 ↓	112 内震災?	非鉄金属	241 重工・軍
金属	98 入×軍	非鉄金属	102 軍	↑船舶	225 軍需

凡例 〈製品名〉

- 赤系統：重化学工業
- 緑系統：綿系統工業
- 黄系統：絹系統工業

〈数字〉

- ゴチ：大きな変化
- 着色：顕著なもの

〈備考〉

- 出：輸出関連
- 入×：輸入停止
- 内：内需関連

綿糸・綿織物はこれまでの位置に

絶対エースの生糸が

船舶がリンク内に復活するなど軍事的要素が復活する

1920年代・軍縮

昭和恐慌・満州事変・日中戦争へ

貿易構造の変化と植民地・中国

1920年代の貿易（三環節構造）

- ①対米：生糸輸出による外貨獲得
- ②対欧(+印)：機械・金属・綿花輸入
- ③対アジア：軍事力背景の綿製品等輸出

①満州・朝鮮→中国への進出強化

- ・繊維製品の朝鮮・満州への依存強化
- ・植民地への重化学製品の比重
51%('30)⇒78%('35)
- ・重化学工業進出⇒建設の本格化

②先進国への依存・従属の進行

- ・深刻な外貨不足
- ・重工業原材料と高度な工作機械の輸入

1930年代の変化

- ⇒世界恐慌+人絹工業の発展
→巨額の対米赤字に
⇒為替・賃金下落・生産性向上を
背景にアジア・世界に輸出を拡大



- ・民族資本との対立(中：日貨排斥)
- ・大英帝国との利害対立
→ブロック経済の構築
=日本製品の締め出し

市場としての中国を
めぐり矛盾の激化

貿易摩擦の発生＝経済での孤立化

- ① 満州事変による排日ボイコット⇒中国向けの激減
⇒世界、とくにアジア各地への綿糸・布の集中豪雨的輸出拡大
- ② 批判：1) 円安放置政策 2) ソーシャルダンピング
- ③ 日英間の対立＝綿糸・布輸出で競合関係⇒日英通商戦争勃発
 - 1) 英領インドへの集中豪雨的輸出拡大
英：関税値上げ⇔日：イギリス綿の不買⇒英、妥協に
 - 2) セイロン、マラヤ⇒綿布・人絹布の割当制導入
 - 3) カナダ…英：ダンピング税⇔木材・小麦・パルプの輸入制限
←日本…**通商擁護法**(1934)貿易の互惠主義を採用
- ④ 米・豪州…日本製品の輸入制限措置の発表「英米対日経済宣戦」

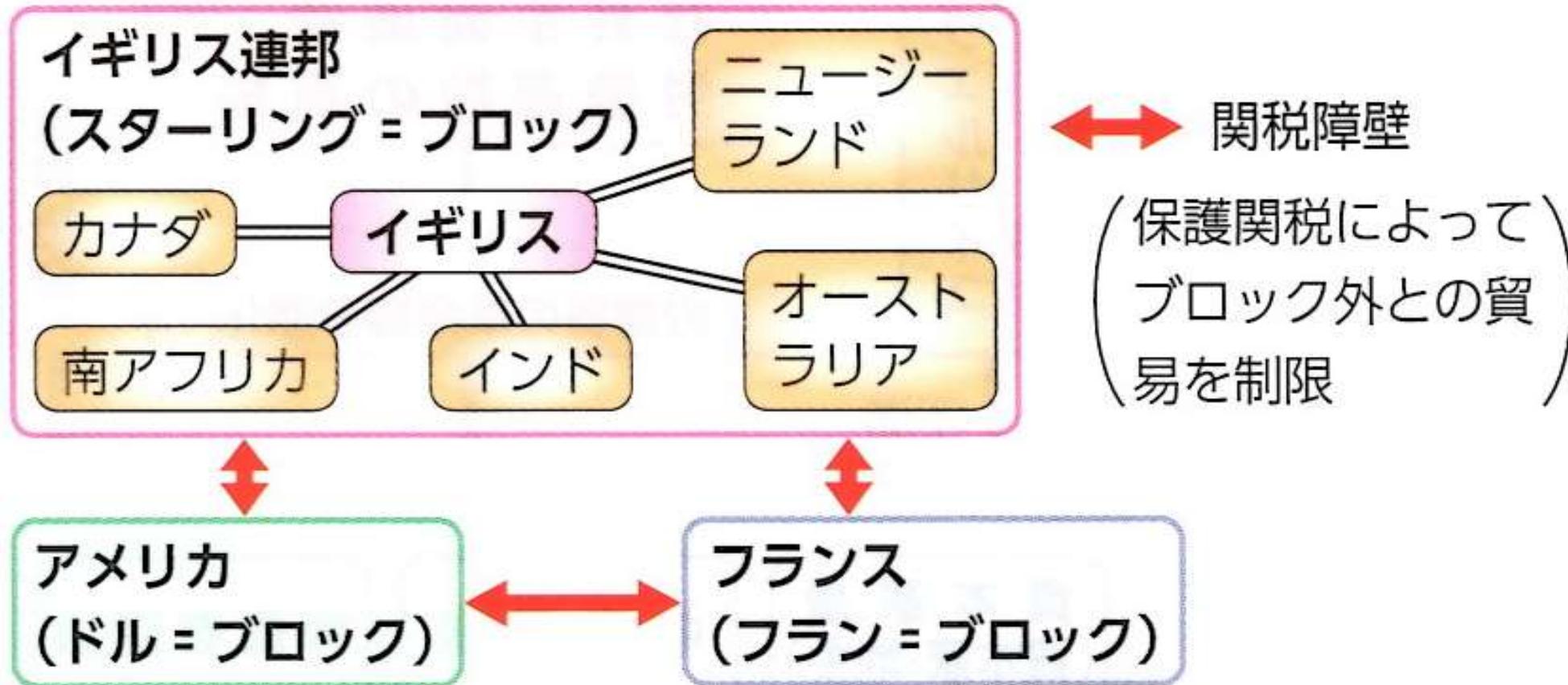
ソーシャル・ダンピング…一国が賃金、労働時間、社会保険などの労働条件を不当に下げることによって生産コストを引き下げ、他国に対して輸出品を廉価で売ること。

保護主義の拡大 ブロック経済

ブロック経済

自国領や勢力圏を関税障壁で
囲み、他国との輸出入を制限し
ようという保護主義的政策

● ブロック経済



ブロック経済の広がり



軍需主導の重化学工業化

①重工業中心の産業保護政策

1932銑鉄の関税の引き上げ⇒製鉄業保護へ

②統制経済論の高まり…・岸信介・軍部

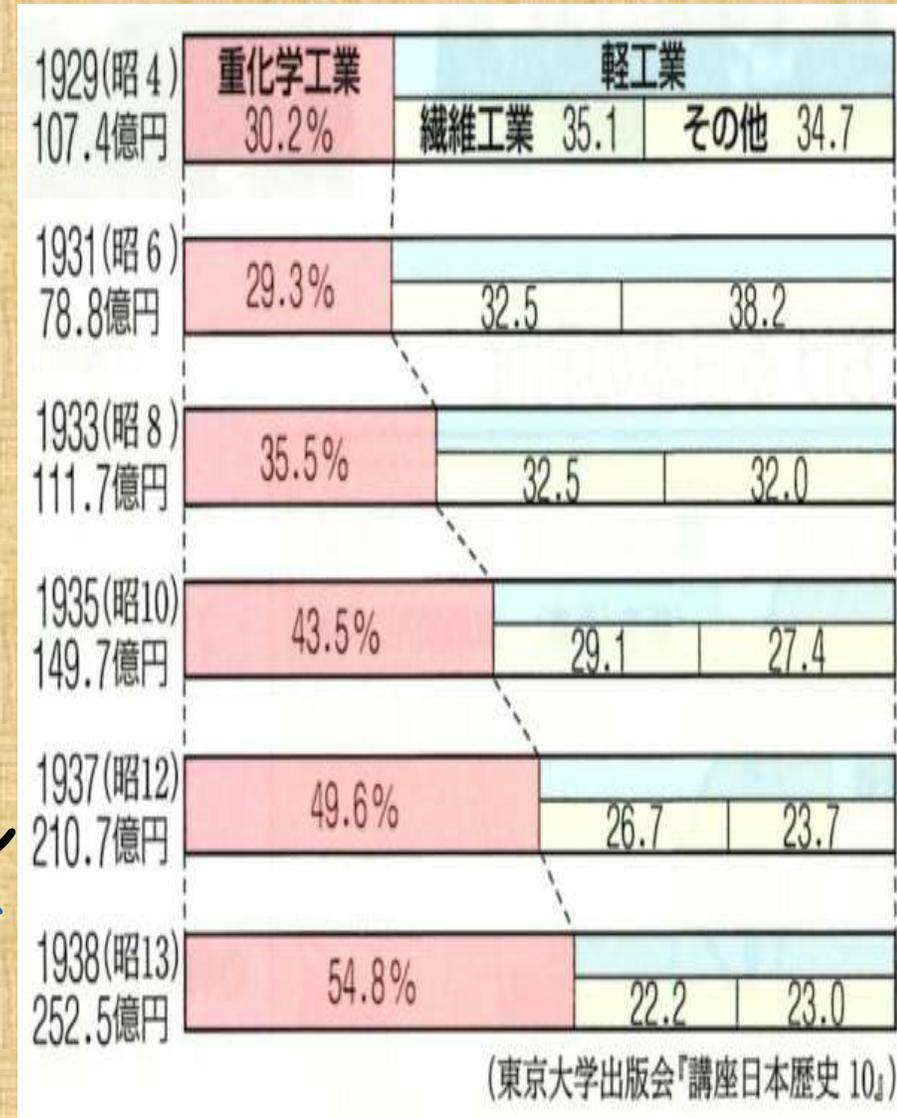
自由放任主義の批判・ソ連流の計画経済主張

③政府による軍需中心の重化学工業化育成策

- ・日本製鉄設立（1933）＝官民合併による国策会社
- ・1932船舶助成改善施設⇒造船業の回復
- ・化学工業の発展＝レーヨン工業の急成長
- ・航空機・自動車の国産化＝自動車製造事業法

④新興財閥の登場＝重化学工業のコンツェルン

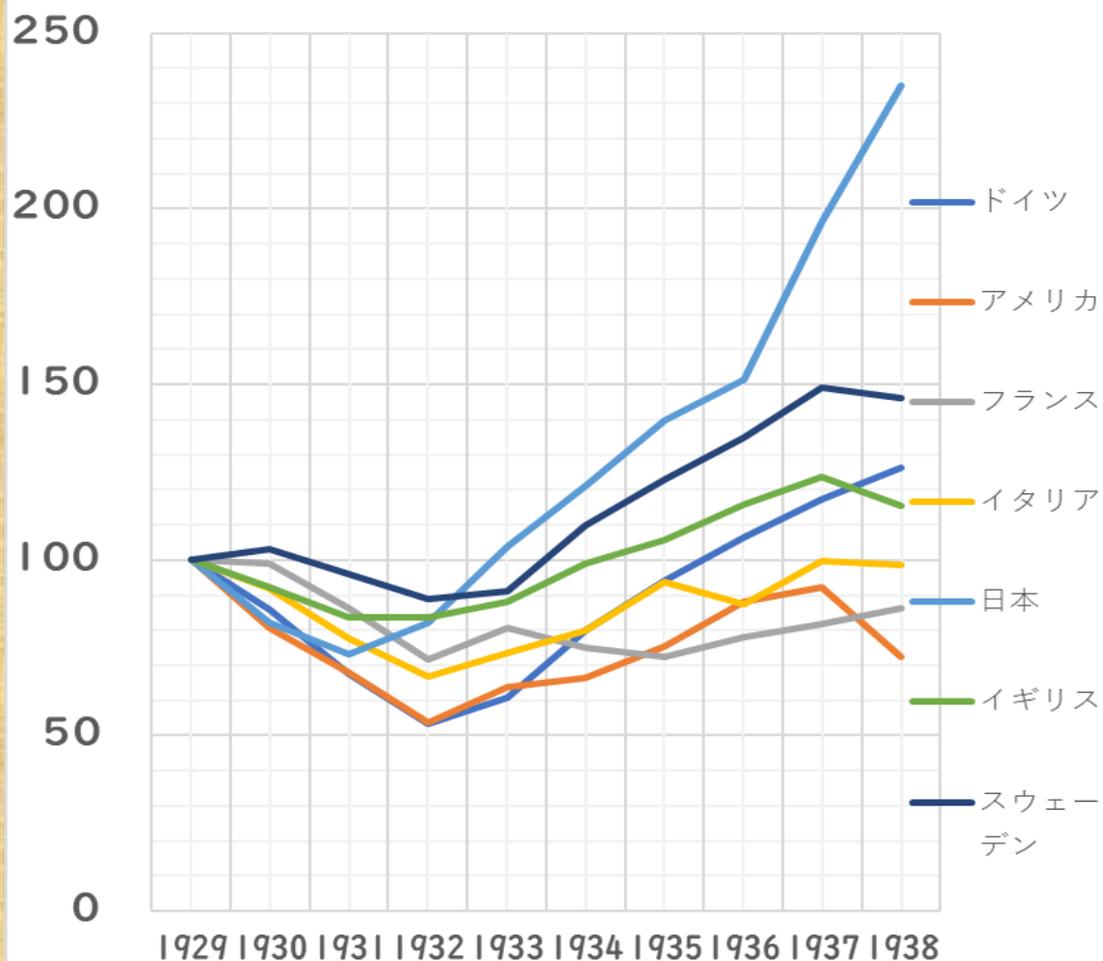
日本産業・日本窒素・日立・理研・中島飛行機など
⇒軍部の満州進出などと結びつく



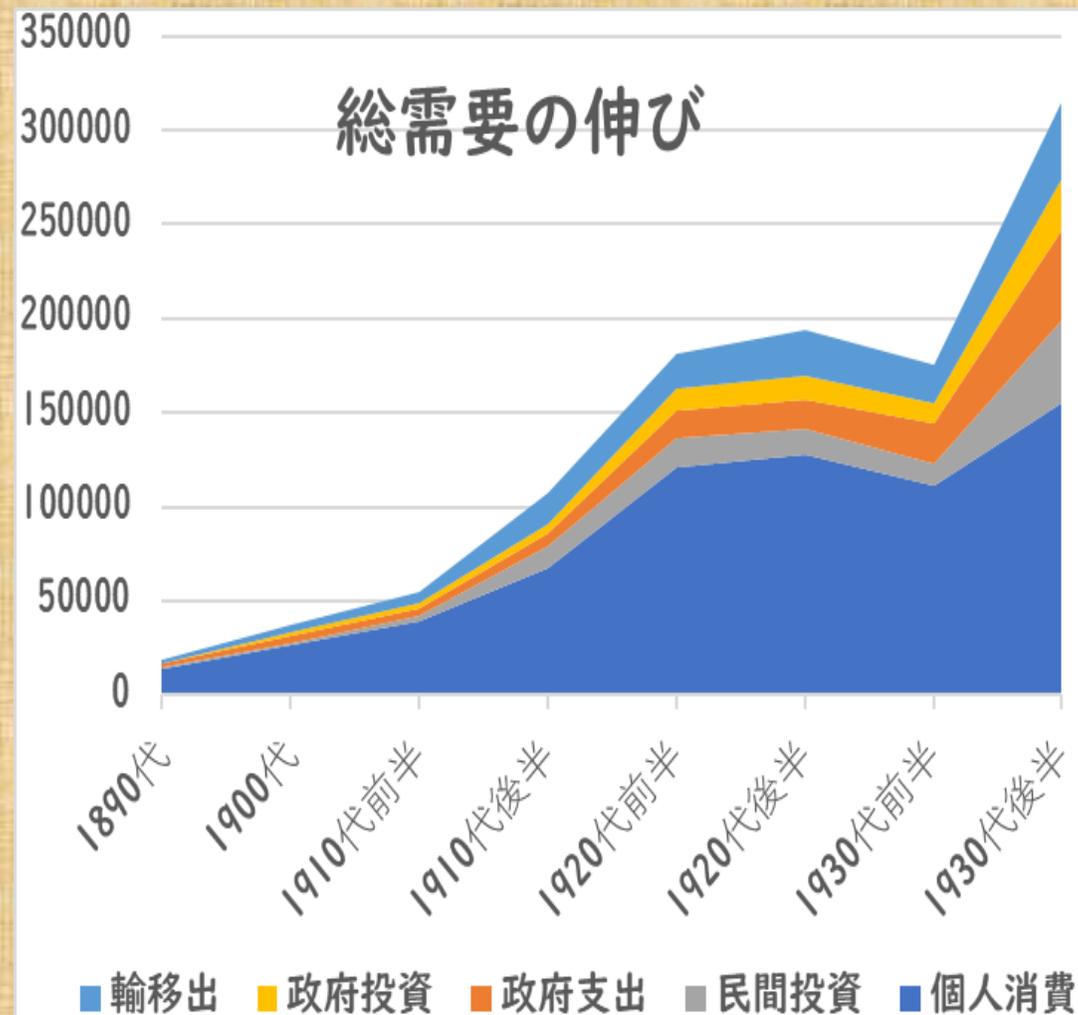
高橋財政下の日本

急速な経済成長と個人消費の低迷

主要国の工業生産の動向



総需要の伸び



高橋財政の 破綻

① 国際緊張をたかめる

⇒ ソシアルダンピング批判 = 円安誘導による
輸出振興と高関税による外国製品のしめだし

⇒ 世界の保護貿易（ブロック経済）促進

⇔ 円ブロック建設をめざす声の高まり

② 経済の回復 ⇒ 資金需要の拡大

→ 国債購入者の減少 = 国債の売れ残り

→ 財政引き締め = 軍事費抑制の必要へ

③ 軍事費の拡大と公共事業の縮小

→ 軍部の際限ない要求 = 軍縮条約の解消



高橋は226事件
で暗殺される。

高橋財政の 破綻

④重化学工業の発展＝新興財閥の登場
⇒軍部と結び、満州・朝鮮へ進出

⑤農村恐慌への対策＝不十分なままに

→時局匡救事業3年で打切り

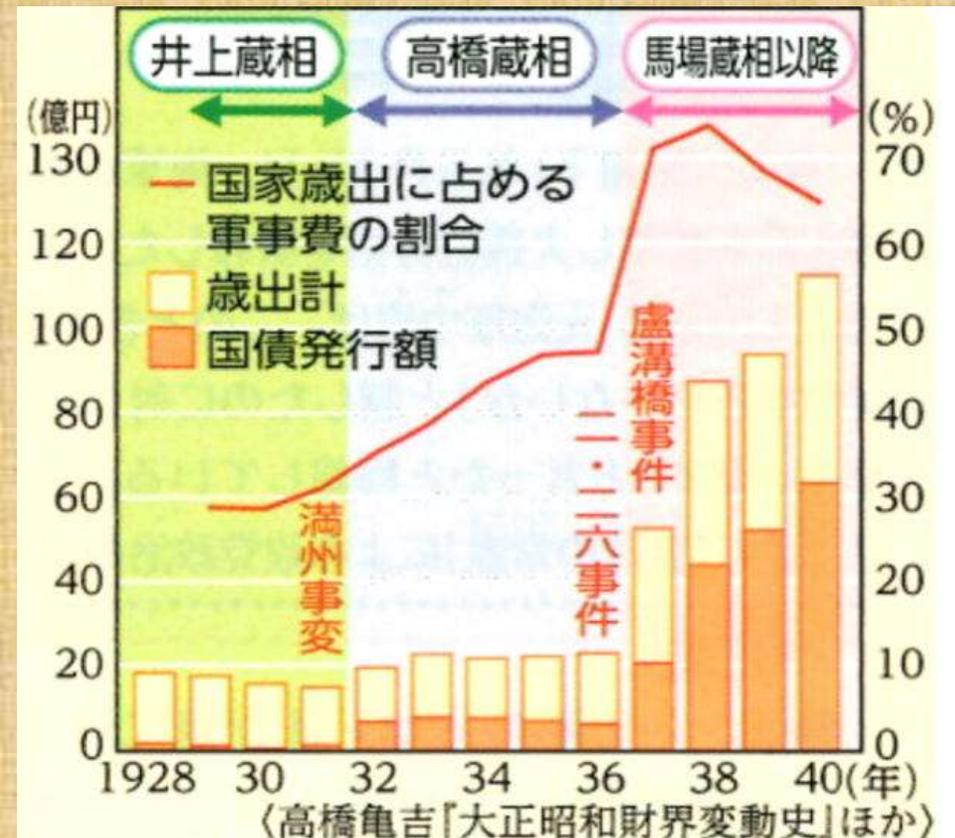
→農山漁村経済更生運動へ

⑥物価の上昇にもかかわらず賃金上昇は抑制
＝実質賃金の下落 →経済格差の拡大

⑦軍部の際限ない要求 ← 軍縮条約解消

⇒226事件…高橋殺害される

⇒廣田内閣・馬場財政、軍部に屈服



世界恐慌下の世界

保護主義の広がり
ブロック経済の導入

持てる国
既存の国際秩序を維持・継続

修正資本主義の導入
国家が経済活動に介入

イギリス

- 第2次マクドナルド内閣 → 失業保険削減
- マクドナルド^{きよこく}挙国一致内閣 → 金本位制停止(1931)

● 1931年憲章(1931) P.207 1年
● ターリング = ブロック結成

● フラン = ブロック形成

- 仏ソ相互援助条約(1935)
- 人民戦線内閣の成立(1936 首班ブルム)

アメリカ

- フーヴァー = モラトリアム
- ニューディール(新規まき直し)
- 善隣外交政策 → 中南米諸国との貿易活発化

持てる国

経済的基盤

持たざる国

ドイツ

- ナチ党内閣(1933 首班ヒトラー)

イタリア

- ファシスト党内閣 → エチオピア侵攻(1935~36)

P.254 早

日本

- 第2次若槻礼次郎^{わかつきれいじろ}内閣
→ 犬養毅^{いぬがいき}内閣

ソ連(社会主義国)

- 第1次五カ年計画(1928~32) P.239 7
- 第2次五カ年計画(1933~37)
- 農業の集団化(コルホーズ, ソフホーズ)

ファシズムの台頭

持たざる国
国際秩序の改変を要求

植民地・勢力圏の再編を要求

<参考文献>

- 武田晴人 『日本経済史』 (有斐閣2019)
『帝国主義と民本主義』 (集英社1992)
- 中村政則 『昭和の恐慌』 (小学館文庫1989)
『昭和恐慌』 (岩波ブックレット1989)
『労働者と農民』 (小学館1976)
- 森 武磨 『アジア・太平洋戦争』 (集英社1993)
- 中村隆英 『昭和恐慌と経済政策』 (講談社学術文庫1994)
- 鈴木正俊 『昭和恐慌史に学ぶ』 (講談社1999)
- 秋元英一 『世界大恐慌』 (講談社学術文庫2009)
- 石井修 『国際政治史としての20世紀』 (有信社高文堂2000)
- 林俊彦 『世界恐慌下のアメリカ』 (岩波新書1988)
『岩波講座世界歴史27現代4』 (岩波書店1971)
- 帝国書院 『図説日本史通覧』、浜島書店 『アカデミア世界史』